

教科	国語	科目	論理国語	単位数	3	学年 (科)	2学年 (国際文化科)
使用教科書	第一学習社『高等学校論理国語』						
副教材等	第一学習社『新訂7版新訂総合国語便覧』 いっずな書店『評論・小説を読むための新現代文単語改訂版』						

1 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 指導の重点

- ・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけることを目指します。
- ・他者との関わりの中で、論理的、批判的に考える力や創造的に考える力を養うことを目指します。
- ・言葉によって自分の考えを形成したり新しい考えを生み出したりすること、言葉から様々なことを感じたり、感じたことを言葉にしたりすることで心を豊かにすること、言葉を通じて他者や社会と関わり自他の存在について理解を深めることなどがある。言葉がもつ価値への認識を深めることを目指します。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・学習到達度確認問題 ・課題考査 ・提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートや、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点
「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」
で評価します。

5 課題・提出物等

- ・毎週の小テストがあります。テスト範囲は、前週に指示します。基本的に副教材から出題します。
- ・単元ごとに、ワークシートを提出してもらいます。文章の理解度を確認します。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。(課題考査の出題範囲や指定図書のリポートなど)

6 学習アドバイス

「論理国語」は論理的・批判的に考える力をつけることによって、創造的に考えることができるようになることを目指しています。そのために、言葉の意味・用法を正しく理解し、正確に論旨を捉えるとともに、多面的な見方によって、新たなものの見方・考え方を身につけましょう。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	評論(一)	2「A書くこと」 6「B読むこと」	鷺田清一 「自他の『間合い』」	・「アイデンティティには必ず他者が必要だ」という筆者の主張を基に、自分の考えを論述したり発表したりする。 ・言い換えや比喩を用いながら、自他の関係性について論じる叙述の方法を理解する。	8	話し合いの様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認) 要約文 (記述の分析)
5	評論(二)	2「A書くこと」 8「B読むこと」	森田良行 『「私」中心の日本語』	・具体例と主張との関係を整理して論理構成を把握し、筆者が主張する日本語の特徴を理解する。 ・日本語の特徴について述べた文章の内容を基に、自分の考えを論述したり発表したりする。	10	話し合いの様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認) 要約文 (記述の分析)
6	評論(三)	3「A書くこと」 8「B読むこと」	清岡卓行 「手の変幻」	・筆者の感性や着眼点、表現の特徴について整理し、主張に説得力を持たせるための論展開について考える。 ・『「欠落」や『無』が重要な役割を果たしている芸術作品』について、調査したことをまとめたり発表したりする。	11	話し合いの様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認) 要約文 (記述の分析)
7	研究論理 推論	3「A書くこと」 6「B読むこと」	仲島ひとみ 「推論とは何か」	・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながらい要旨を把握する方法を学ぶ。 ・推論のしかたについて理解し、活用する方法を学ぶ。	9	話し合いの様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認)
8 9	評論(四)	4「A書くこと」 8「B読むこと」	A I時代の社会と法 小塚庄一郎	・AI (人工知能) の発展がもたらす社会と法の関係の変化を把握し、今日的な問題意識を持つ。 ・A Iの発展がもたらす社会と法の関係の変化について述べた文章の内容を基に、自分の考えを論述したり発表したりする。	12	話し合いの様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認) 要約文 (記述の分析)
10	評論(五)	4「A書くこと」 8「B読むこと」	生体認証技術の発展と未来 高橋麻子	・生体認証技術の持つ課題を文脈から把握し、それが現代社会に投げかける意味について考えを深める。 ・生体認証技術の持つ課題について述べた文章の内容を基に、自分の考えを論	12	話し合いの様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認) 要約文

				述したり発表したりする。		(記述の分析)
11	評論(六)	4「A書くこと」 8「B読むこと」	「第二の身体」としてのメディアと技術 若林幹雄	・メディアを「第二の身体」と捉える論理を把握し、自己と技術や道具との関係について考えを深める。 ・自己と技術や道具との関係について述べた文章の内容を基に、自分の考えを論述したり発表したりする。	1 2	話し合いの様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認) 要約文 (記述の分析)
12	読み比べコミュニケーション	2「A書くこと」 5「B読むこと」	身体的表現の関係性 野村雅一	・コミュニケーションをテーマとした文章を読み比べ、書き手の立場や目的を考えながら内容を解釈し、両者を比較しながら考えをまとめる。 ・文章に関連した題材について、さまざまな観点から自分の考えを論述したり発表したりする。	7	話し合いの様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認) 要約文 (記述の分析)
1	実用文(一)	2「A書くこと」 3「B読むこと」	法に関わる文章を読み比べる	・二種類の実用的な文章を読み比べて必要な情報を読み取り、両者を関連づけて解釈する方法を学ぶ。 ・関連する文章を比較して読み、書き手の立場や目的を考えながら内容を解釈する。	5	話し合いの様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認) 要約文 (記述の分析)
	レポートを書く	2「A書くこと」	資料を集めて情報を整理する	・集めた情報を的確に整理する方法を理解し、設定した題材について分析した内容を、レポートにまとめる方法を学ぶ。	2	レポート (記述の分析)
2	レポートを書く	2「A書くこと」	得られた情報を整理して分析して報告するテーマを絞り込む	・得られた情報から疑問点をあげていく方法を理解し、その疑問点を整理してテーマを絞り込む方法を理解する。 ・設定した題材について分析した内容を、レポートにまとめる方法を学ぶ。	2	レポート (記述の分析)
	レポートを書く	3「A書くこと」	構成を考えてレポートを書く	・レポートのアウトラインを作成する方法を理解し、実際にレポートを書く方法を理解する。	3	レポート (記述の分析)
3	レポートを書く	3「A書くこと」	書いたレポートを評価・分析して修正する	・書き上げたレポートを評価するポイントを理解し、指摘された修正点をふまえて、実際にレポートを修正できるようになる。	3	話し合いの様子 (行動の確認) レポート (記述の分析)

計 96 時間 (55 分授業)

※領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「書くこと」 36 時間	B「読むこと」 60 時間
-----------------	------------------	------------------

教科	国語	科目	論理国語	単位数	2	学年 (科)	2学年 (情報科学科)
使用教科書	第一学習社『高等学校論理国語』						
副教材等	第一学習社『新訂7版新訂総合国語便覧』 いっずな書店『評論・小説を読むための新現代文単語改訂版』						

1 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 指導の重点

- ・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけることを目指します。
- ・他者との関わりの中で、論理的、批判的に考える力や創造的に考える力を養うことを目指します。
- ・言葉によって自分の考えを形成したり新しい考えを生み出したりすること、言葉から様々なことを感じたり、感じたことを言葉にしたりすることで心を豊かにすること、言葉を通じて他者や社会と関わり自他の存在について理解を深めることなどがある。言葉がもつ価値への認識を深めることを目指します。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・学習到達度確認問題 ・課題考査 ・提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートや、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点

「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」
で評価します。

5 課題・提出物等

- ・毎週の小テストがあります。テスト範囲は、前週に指示します。基本的に副教材から出題します。
- ・单元ごとに、ワークシートを提出してもらいます。文章の理解度を確認します。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。(課題考査の出題範囲や指定図書のリポートなど)

6 学習アドバイス

「論理国語」は論理的・批判的に考える力をつけることによって、創造的に考えることができるようになることを目指しています。そのために、言葉の意味・用法を正しく理解し、正確に論旨を捉えるとともに、多面的な見方によって、新たなものの見方・考え方を身につけましょう。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	評論(一)	1「A書くこと」 4「B読むこと」	鷲田清一 「自他の『間合い』」	・「アイデンティティには必ず他者が必要だ」という筆者の主張を基に、自分の考えを論述したり発表したりする。 ・言い換えや比喩を用いながら、自他の関係性について論じる叙述の方法を理解する。	5	話し合いの様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認) 要約文 (記述の分析)
5	評論(二)	1「A書くこと」 5「B読むこと」	森田良行 『「私」中心の日本語』	・具体例と主張との関係を整理して論理構成を把握し、筆者が主張する日本語の特徴を理解する。 ・日本語の特徴について述べた文章の内容を基に、自分の考えを論述したり発表したりする。	6	話し合いの様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認) 要約文 (記述の分析)
6	評論(三)	2「A書くこと」 6「B読むこと」	清岡卓行 「手の変幻」	・筆者の感性や着眼点、表現の特徴について整理し、主張に説得力を持たせるための論展開について考える。 ・『「欠落」や『無』が重要な役割を果たしている芸術作品』について、調査したことをまとめたり発表したりする。	8	話し合いの様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認) 要約文 (記述の分析)
7	研究論理 推論	2「A書くこと」 3「B読むこと」	仲島ひとみ 「推論とは何か」	・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する方法を学ぶ。 ・推論のしかたについて理解し、活用する方法を学ぶ。	5	話し合いの様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認)
8 9	評論(四)	2「A書くこと」 6「B読むこと」	小塚荘一郎 「AI時代の社会と法」	・AI (人工知能) の発展がもたらす社会と法の関係の変化を把握し、今日的な問題意識を持つ。 ・AIの発展がもたらす社会と法の関係の変化について述べた文章の内容を基に、自分の考えを論述したり発表したりする。	8	話し合いの様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認) 要約文 (記述の分析)
10	評論(五)	2「A書くこと」 6「B読むこと」	高橋麻子 「生体認証技術の発展と未来」	・生体認証技術の持つ課題を文脈から把握し、それが現代社会に投げかける意味について考えを深める。 ・生体認証技術の持つ課題について述べた文章の内容を基に、自分の考えを論	8	話し合いの様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認) 要約文

				述したり発表したりする。		(記述の分析)
11	評論(六)	2「A書くこと」 6「B読むこと」	若林幹雄 『第二の身体』 としてのメディアと技術	・メディアを「第二の身体」と捉える論理を把握し、自己と技術や道具との関係について考えを深める。 ・自己と技術や道具との関係について述べた文章の内容を基に、自分の考えを論述したり発表したりする。	8	話し合いの様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認) 要約文 (記述の分析)
12	読み比べコミュニケーション	1「A書くこと」 3「B読むこと」	細川英雄 「対話の意味」 野村雅一 「身体的表現の関係性」	・コミュニケーションをテーマとした文章を読み比べ、書き手の立場や目的を考えながら内容を解釈し、両者を比較しながら考えをまとめる。 ・文章に関連した題材について、さまざまな観点から自分の考えを論述したり発表したりする。	4	話し合いの様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認) 要約文 (記述の分析)
1	実用文(一)	1「A書くこと」 1「B読むこと」	法に関わる文章を読み比べる	・二種類の実用的な文章を読み比べて必要な情報を読み取り、両者を関連づけて解釈する方法を学ぶ。 ・関連する文章を比較して読み、書き手の立場や目的を考えながら内容を解釈する。	2	話し合いの様子 (行動の確認) ワークシート (記述の確認) 要約文 (記述の分析)
	レポートを書く	2「A書くこと」	資料を集めて情報を整理する	・集めた情報を的確に整理する方法を理解し、設定した題材について分析した内容を、レポートにまとめる方法を学ぶ。	2	レポート (記述の分析)
2	レポートを書く	2「A書くこと」	得られた情報を整理して分析して報告するテーマを絞り込む	・得られた情報から疑問点をあげていく方法を理解し、その疑問点を整理してテーマを絞り込む方法を理解する。 ・設定した題材について分析した内容を、レポートにまとめる方法を学ぶ。	2	レポート (記述の分析)
	レポートを書く	3「A書くこと」	構成を考えてレポートを書く	・レポートのアウトラインを作成する方法を理解し、実際にレポートを書く方法を理解する。	3	レポート (記述の分析)
3	レポートを書く	3「A書くこと」	書いたレポートを評価・分析して修正する	・書き上げたレポートを評価するポイントを理解し、指摘された修正点をふまえて、実際にレポートを修正できるようになる。	3	話し合いの様子 (行動の確認) レポート (記述の分析)

計 64 時間 (55 分授業)

※領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「書くこと」 24 時間	B「読むこと」 40 時間
-----------------	------------------	------------------

教科	国語	科目	古典探究	単位数	3単位	学年(科)	2学年(国際文化科・情報科学科)
使用教科書		数研出版『古典探究 古文編』・数研出版『古典探究 漢文編』					
副教材等		ベネッセコーポレーション『ベネッセ全訳古語辞典(改訂版)』、第一学習社『新版五訂完全マスター古典文法』、第一学習社『完全マスター古典文法準拠ノート基礎固め』、尚文出版『必携新明説漢文』、尚文出版『必携新明説漢文シリーズ基本練習ノート』、尚文出版『新版理解を深める 核心古文単語351』、第一学習社『新版七訂 新訂総合国語便覧』					

1 学習目標

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 指導の重点

- ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増やし、その文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して語感を磨くとともに、それを使って自分の考えや思いを適切に表現することを目指します。
- ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文法のきまりや語句、古典特有の表現などについて理解し、それを踏まえた上で本文を読み味わうことができるようになることを目指します。
- ・様々な時代に書かれた散文や韻文を読み味わうことを通して、表現や構成の特色や文化的背景を踏まえた上で、そこに表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈し理解することを目指します。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。また、伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養うようにしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・学習到達度確認問題 ・課題考査 ・提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートや、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。

内容のまとめりに、各観点
「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」
で評価します。

5 課題・提出物等

- ・週末課題を課し、その内容をもとに毎週1回学習到達度確認問題を行います。課題は提出を原則とします。範囲は学年便りで指示します。
- ・長期休業課題を課し、それをもとに課題考査を行います。課題は提出を原則とします。また定期考査を行います。それぞれ範囲は別途指示します。
- ・単元によって課題として感想シートやレポート、作品の提出などを課します。それに関しては別途指示が出ます。

6 学習アドバイス

- ①古典も近代以降の文章も、単語や語彙、文法に関する正しい理解がなければ、表現されているものを読み味わうことはできません。これらの力は地道な努力と積み重ねによって身につきます。日々の授業の他、学習内容確認問題や各種考査を活用して、確実な定着を目指しましょう。
- ②KJは授業第一主義です。授業を軸にして、予習・授業・復習・確認のサイクルをしっかりと築きましょう。予習時点で生じた疑問点は授業の中で解決し、そこで新たな疑問が生じた場合は復習時に質問するなどして、理解と定着を心掛けましょう。
- ③「古典探究」の授業では、1年生での「言語文化」の内容をうけて、時間や空間、表現形式を越えて、様々な作品を扱います。作品にはそれぞれの時代や文化、歴史的な背景があり、そこに生きる人たちの姿を伝えています。作品に触れて抱いた感想や考えを大切にしてください。また、読書を通してさらに多くのものの見方や感じ方、考え方、そして言葉や表現を吸収していきましょう。それが皆さん自身を形づくるものになります。

7 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	説話	A読むこと	『十訓抄』 『沙石集』 『古今著聞集』	・読解に必要な文語のきまりの理解を深める。 ・作品を読み、文章の内容、構成や展開の仕方、説話の特徴を的確に捉え、内容の理解を深める。	8	話し合いの様子（行動の確認） ワークシート・ノート（記述の確認）
5	故事	A読むこと	『韓非子』 『世説新語』 『歴代名画記』 『説苑』	・読解に必要な訓読のきまりの理解を深める。 ・作品や文章に表れているものの見方や感じ方、考え方を的確に捉え、内容の理解を深める。 ・内容の解釈を踏まえて朗読を工夫し、話し合う。	8	話し合い・朗読・発表の様子（行動の確認） ワークシート・ノート（記述の確認）
6	歌物語	A読むこと	『伊勢物語』 『大和物語』	・古典特有の韻文の表現の理解を深める。 ・作品を読み、文章の内容、構成や展開の仕方、歌物語の特徴を的確に捉え、内容の理解を深める。	8	ワークシート・ノート（記述の確認）
7	漢詩	A読むこと	「中国の詩」 「日本の詩」	・漢詩のきまりや表現の理解を深める。 ・漢詩の表現技法を参考に漢詩を作り、発表する。 ・伝統的な形式的特徴を踏まえて、構成や展開などを的確に捉える。	8	話し合い・漢詩制作・発表の様子（行動の確認） ワークシート・ノート（記述の確認）
8	随筆 (一)	A読むこと	『枕草子』	・読解に必要な文語のきまりや表現、作品の時代的文化的背景の理解を深める。 ・作品に表れているものの見方や感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・古典の言葉を現代の言葉と比較し、その変遷について考え、調べ、まとめる。	8	話し合い・発表の様子（行動の確認） ワークシート・ノート（記述の確認） レポート（記述の分析）

9	随筆 (二) 日記文学(一)	A読むこと	『徒然草』 『方丈記』 『更級日記』	・随筆を読み、人間、社会、自然などに対する作者の思想や感情を読み取る。 ・作品を読み、文章の内容、構成や展開の仕方、日記の特徴を的確に捉え、内容の理解を深める。	4 4	話し合いの様子(行動の確認) ワークシート・ノート(記述の確認)
		A読むこと	『史記』	・長い漢文を読み、文章の特色や登場人物の心情を理解する。 ・内容の解釈を踏まえて朗読を工夫し、話し合う。 ・作品に表れているものの見方や感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。	8	話し合い・朗読・発表の様子(行動の確認) ワークシート・ノート(記述の確認)
11	物語	A読むこと	『源氏物語』	・読解に必要な文語のきまりや表現を理解し、深める。 ・長い文章を読み、登場人物の心情を理解する。 ・作品に表れているものの見方や感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり、深めたりする。	8	話し合い・発表の様子(行動の確認) ワークシート・ノート(記述の確認)
12	思想	A読むこと	『論語』 『孟子』 『荀子』 『老子』 『莊子』 『韓非子』 「未来に備える遺伝子」	・諸子百家の文章を読み、思想の概要や我が国の文化との関係について理解を深める。 ・古代中国の思想から現代に通ずるものの見方・考え方を知り、自分の考えをまとめる。 ・古典にまつわる現代文を読み、古典作品や文章の価値について考察し、文章をまとめる。	8	話し合い・発表の様子(行動の確認) ワークシート(記述の点検) ノート(記述の確認) レポート(記述の分析)
1	歴史物語	A読むこと	『大鏡』	・文章の内容を構成や展開に即して理解を深める。 ・歴史物語を読み、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・内容の解釈を踏まえて朗読を工夫し、話し合う。	8	話し合い・朗読・発表の様子(行動の確認) ワークシート・ノート(記述の確認)
2	和歌・歌謡・俳諧	A読むこと	『古今和歌集仮名序』 「和歌」・「歌謡」 「江戸俳諧・発句」	・作品の成立背景や、文化的背景を踏まえて内容の理解を深める。 ・古典を読み、その語彙や表現の技法を参考にし、和歌や俳諧を創作し、発表する。	8	話し合い・発表の様子(行動の確認) ワークシート・ノート(記述の確認)
3	文章	A読むこと	『漁父辞』 『桃花源記』 『売油王』	・作品の成立背景や、文化的背景を踏まえて、内容や構成、表現の特色などを的確に捉える。 ・作品の現代における意義や価値などについて話し合い、考えをまとめる。	8	話し合い・発表の様子(行動の確認) ワークシート・ノート(記述の確認)

計96時間(55分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「読むこと」 96 時間		
-----------------	------------------	--	--

教科	地理歴史	科目	地理探究	単位数	2単位	学年(科)	2学年(国際文化科)
使用教科書	新祥地理探究(帝国書院)						
副教材等	新祥高等地図(帝国書院) 新祥地理資料COMPLETE(帝国書院) 新地理要点ノート(啓隆社)						

1 学習目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的・文化的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 指導の重点

- ①授業に集中すること。「どこで」「なぜ」という問題意識を常にもちながら、授業を受ける。こうした姿勢が、地理的な思考能力の向上につながる。
- ②知識を定着させる重要な手段が、週末課題と小テストである。この2つに真剣に取り組み、短いスパンで確実な知識定着を目指す。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
地図や統計、画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択し、読み取ったり図表にまとめたりしようとしている。	現代世界の地理的事象から課題を見出し、それを系統地理的・地誌的に考察し、公正に判断・表現しようとしている。	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究しようとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・地形図やグラフ、統計資料の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、週末課題などの内容の確認 などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点

「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」
で評価します。

5 課題・提出物等

- ・2週間に1回位のペースで到達度確認テストがあります。
- ・週末課題や長期休業中の課題は別途指示します。

6 学習アドバイス

- ①地理は復習重視の科目である。授業後すぐにノート・プリントの見直しや要点ノート・資料集を使った復習を行うと効果的である。そのためには何よりも授業への集中が大前提である。
- ②新聞やニュースは地理ネタの宝庫である。世界の今に興味をもち、なぜそうなっているのかを考えてみるのが、日々の授業への関心を高め、知識を増やすことにつながる。
- ③模試は、受けるたびに必ず復習する。授業で学んだ知識が本当に活用できるのか、新たな視点や最新の統計を用いた出題にはどのようなものがあるのかなど、模試から学べることは実に多い。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4 5 6	第1章自然環境	1 節地形 2 気候 3 日本の自然環境 4 地球環境問題	「新祥地理探究」 (帝国書院)	<ul style="list-style-type: none"> ・地形の分布や成因、基本的な形成や仕組みについて理解する。 ・世界の気候について理解する。 ・日本・世界の自然の特徴や災害について理解する。 	1 5	学習到達度確認テスト 作業プリントの確認 前期中間考査
7 8 9	第2章資源と産業	1 農林水産業 2 食料問題 3 エネルギー・鉱山資源 4 資源・エネルギー 5 工業 6 3次産業		<ul style="list-style-type: none"> ・資源・エネルギーや農業、工業などに関わる諸事象理解する。 ・それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、資源・エネルギー、食料問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。 	1 6	学習到達度確認テスト 作業プリントの確認 前期末考査
10 11	第3章交通・通信と観光、貿易	1 交通・通信 2 観光 3 貿易と経済圏		<ul style="list-style-type: none"> ・交通・通信網と物流や人の移動に関する運輸、観光などに関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、交通・通信、観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。 	1 1	学習到達度確認テスト 作業プリントの確認
12 1	第4章人口・村落・都市	1 人口 2 人口問題 3 村落と都市 4 都市・居住問題		<ul style="list-style-type: none"> ・増加する世界人口と世界各地の人口の増減や分布、年齢別構成、移動には、どのような特徴がみられるかについて理解している。 ・村落や都市の立地や発達、形態、変容のしかたにみられる傾向や規則性、国や地域によって異なる地域性について理解している。 	1 1	学習到達度確認テスト 作業プリントの確認
2 3	第5章生活文化、民族・宗教	1 衣食住 2 民族・宗教と民族問題 3 国家の領域と領土問題		<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境や社会環境などを反映して形成されてきた伝統的な衣食住の生活文化にはどのような傾向があり、世界的な画一化の動きとどのように関わっているかについて理解している。 国家の領域と領土問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。 	1 1	学習到達度確認テスト 作業プリントの確認

計64時間 (55分授業)

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	2単位	学年 (科)	2学年 (国際文化科)
使用教科書	山川出版社『詳説日本史』						
副教材等・	第一学習社『最新日本史図表』						

1 学習目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ①我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に理解するとともに、我が国の歴史に関する様々な事情を、適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ②我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、相互の関連や現在とのつながりなどに着目し、多面的・多角的に考察するとともに、効果的に説明・議論する力を養う。
- ③我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、我が国の歴史に対する深い理解、他国や他国の文化や思想を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

2 指導の重点

- ①我が国の歴史の展開に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現させることを目指します。
- ②学習到達度確認問題で歴史事象に関する基礎的知識の定着を図ります。また、授業の中で得た歴史的思考力、判断力を演習問題等でさらに認識を深めることを目指します。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら理解するとともに、我が国の歴史に関する様々な事情を、適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、相互の関連や現在とのつながりなどに着目し、多面的・多角的に考察するとともに、効果的に説明・議論する力を身に付けている	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、我が国の歴史に対する深い理解、他国や他国の文化や思想を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けている

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査、学習到達度確認テスト ・課題などの提出物 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・課題などの提出物 ・授業態度 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・課題などの提出物 ・授業態度 などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点

「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」
で評価します。

5 課題・提出物等

- ・学習到達度確認テストをおこないます。範囲はテスト前に提示します。
- ・週末課題や長期休業中の課題は、別途指示します。

6 学習アドバイス

- ①日本史は復習重視の科目です。授業後すぐにノート・プリントの見直しや要点ノート・資料集を使った復習を行うと効果的です。そのためには何よりも授業への集中が大前提となります。
- ②ニュースや新聞を読むことにより、日本と世界の今に興味をもち、その背景を考えることが、授業への関心を高め、知識を増やすことにつながります。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4 ・ 5 月	第1章 日本文化の あけぼの 第2章 古墳とヤマ ト政権	1 文化の始まり 2 農耕社会の成立 1 古墳文化の展開 2 飛鳥の朝廷	山川出版社 『詳説日本史』	<ul style="list-style-type: none"> ・日本列島と日本人の始まりを、旧石器時代から縄文時代への移行を通して理解する。 ・弥生時代の農耕生活から小国の分立への経緯を理解する。 ・ヤマト政権の成立過程、古墳や大陸との関係について理解する。 ・ヤマト政権の発展と飛鳥の文化について理解する。 	13	定期考査 学習到達度 確認テスト 課題 授業態度
5 ・ 6 ・ 7 月	第3章 律令国家の 形成 第4章 貴族政治の 展開	1 律令国家への道 2 平城京の時代 3 律令国家の文化 4 律令国家の変容 1 摂関政治		<ul style="list-style-type: none"> ・律令国家の成立過程と古代政治について理解する。 ・奈良時代の対外関係や土地制度、白鳳期の文化について理解する。 ・平安遷都と地方支配を中心に、貴族社会と政治形態の変容について理解する。 	13	
7 ・ 8 ・ 9 月	第4章 貴族政治の 展開 第5章 院政と武士 の躍進	2 国風文化 3 地方政治の展開と武士 1 院政の始まり 2 院政と平氏政権		<ul style="list-style-type: none"> ・国風文化成立の背景と浄土教の流行について理解する。 ・地方支配の変化に伴う武士の成長の過程を理解する。 ・摂関政治から院政への推移、院政と武士の関わりについて理解する。 	10	
10 ・ 11 ・ 12 月	第6章 武家政権の 成立	1 鎌倉幕府の成立 2 武士の社会 3 モンゴル襲来と幕府の衰退 4 鎌倉文化		<ul style="list-style-type: none"> ・初の武家政権である鎌倉幕府の成立と朝幕関係について理解する。 ・北条氏の台頭と執権政治、武家社会のしくみについて理解する。 ・モンゴル襲来が幕府支配に与えた影響と鎌倉文化について理解する。 	14	
1 ・ 2 ・ 3 月	第7章 武家社会の 成長	1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場		<ul style="list-style-type: none"> ・南北朝の動乱を経て、京都に誕生した室町幕府の成立について理解する。 ・守護大名と一揆発生が幕府に与えた影響と室町文化について理解する。 ・応仁の乱後の下剋上の時代と戦国大名の領国支配について理解する。 	14	

計64時間（55分授業）

教科	地理歴史	科目	世界史探究	単位数	2単位	学年 (科)	2学年 (国際文化科)
使用教科書	山川出版社『詳説世界史』						
副教材等	第一学習社『グローバルワイド最新世界史図表』						

1 学習目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解する。
- (2) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、それらを説明したり、議論したりする力を養う。
- (3) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

2 指導の重点

- ① 歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、諸国家の社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現させることを目指します。
- ② 学習到達度確認問題で歴史事象に関する基礎的知識の定着を図ります。また、授業の中で得た歴史的思考力、判断力を演習問題等でさらに認識を深めることを目指します。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解している	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、それらを説明したり、議論したりする力を身に付けている	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・学習到達度確認テスト ・課題 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・課題 ・授業態度 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・課題 ・授業態度 などから、評価します。

内容のまとめりに、各観点

「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。

5 課題・提出物等

- ・学習到達度確認テストをおこないます。範囲はテスト前に提示します。
- ・週末課題は、適宜提出してもらいます。長期休業中の課題は、別途指示します。

6 学習アドバイス

- ・世界史は復習重視の科目です。授業後すぐにノート・プリントの見直しや要点ノート・資料集を使った復習を行うと効果的です。そのためには何よりも授業への集中が大前提となります。
- ・世界の今に興味をもち、その背景を考えることが、授業への関心を高め、知識を増やすことにつながります。日々ニュースや新聞を読むことを心がけよう。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4 ・ 5 月	第1章 文明の成立 と古代文明 の特質	1 文明の誕生 2 古代オリエント文明 3 南アジアの古代文明 4 中国の古代文明 5 南北アメリカ文明	山川出版社 『詳説世界史』	・人類の進化や文明誕生の道のりを理解する。 ・西アジア文明、インダス文明、中華文明などを基に、古代文明の歴史的特質を理解する。	13	定期考査 学習到達度 確認テスト 課題 授業態度
5 ・ 6 ・ 7 月	第2章 中央ユーラ シアと東ア ジア世界	1 中央ユーラシア 2 秦・漢帝国 3 中国の動乱と変容 4 東アジア文化圏の形成		・秦・漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の動向などを基に、東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解する。	13	
7 ・ 8 ・ 9 月	第3章 南アジア世 界と東南ア ジア世界の 展開	1 仏教の成立と南アジアの統一国家 2 インド古典文化とヒンドゥー教の定着 3 東南アジア世界の形成と展開		・仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアと東南アジアの諸国家などを基に、南アジアと東南アジアの歴史的特質を理解する。	10	
10 ・ 11 ・ 12 月	第4章 西アジアと 地中海周辺 の国家形成	1 イラン諸国家の興亡とイラン文明 2 ギリシア人の都市国家 3 ローマと地中海支配 4 キリスト教の成立と発展		・西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教の成立などを基に、西アジアと地中海周辺の諸国家の歴史的特質を理解する。	14	
1 ・ 2 ・ 3 月	第5章 イスラーム 教の成立と ヨーロッパ 世界の形成	1 アラブの大征服とイスラーム政権の成立 2 ヨーロッパ世界の形成		・キリスト教とイスラームを基盤とした国家の形成などを基に、ヨーロッパと西アジアにおけるキリスト教とイスラームを基盤とした国家の歴史的特質を理解する。	14	

計 64 時間 (55 分授業)

教科	公民	科目	公共	単位数	2単位	学年(科)	2学年
使用教科書	「公共」(実教出版)						
副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・数研出版『政治・経済』 ・啓隆社『サクシート政経／公共』 ・数研出版『4ステージ演習ノート政治・経済』 						

1 学習目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断の手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

(2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。

(3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

2 指導の重点

①現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断の手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

①現代社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したこと議論する力を養う。

②現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代社会を理解する上で必要となる基本事項や追究の方法を理解し、身につけている。また、統計資料や画像などから必要な情報を収集し、それらを使って自分の考えをまとめることができる。	・現代社会の諸問題を理解し、福祉や公正といった公共的な観点を踏まえて思考・判断し、他者に対して自分の考えを適切に表現することができる。	現代社会の基本事項から課題点を導き出し、その問題の解決策等を導こうとしている。また、適切な資料を用いるなどして、公共的な視点から自分の考えをまとめようとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査、学習到達度確認テスト ・課題などの提出物 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・課題などの提出物 ・授業態度 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・課題などの提出物 ・授業態度 などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点

「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」
で評価します。

5 課題・提出物等

- ・毎月、学習到達度確認テストを行います。範囲等はテスト前に提示します。
- ・週末課題を課します。長期休業中の課題等は別途指示します。課題は単にこなすだけの「作業」に終わらず、学習内容の定着を目指して行いましょう。

6 学習アドバイス

- ①予習より復習重視の科目です。授業後に、ノートの見直しや教科書等による復習を行うと効果的です。
- ②新聞やニュースは授業で扱う事項の宝庫です。日々起こっている出来事に興味をもち、その背景を考えてみることで、日々の授業への関心を高め、知識を増やすことにつながります。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	社会を作る私たち		・青年期とは ・自己形成の課題	人生における青年期の意義について学び、自己形成の課題について考察する。	5	学習到達度確認テスト、作業プリント
5	人間としてよく生きる		・古代ギリシアの人間観 ・科学と人間	哲学の誕生について学ぶとともに、人間の倫理観の始まりについて考察することで、自らの生き方を考える。	6	学習到達度確認テスト、前期中間考査
6	他者とともに生きる		・人間と幸福 ・公正な社会をめざして	人間とは何か。私たちの社会はどのようにして作られ、維持されてきたのか。その思想的な背景を考察する。	6	学習到達度確認テスト、作業プリント
7 8	民主社会の倫理		・人間の尊厳と平等 ・自由・権利と責任・債務	人権の普遍性を捉えることを通して、自己の尊厳だけでなく他者の尊厳をも尊重することの重要性を学ぶ。	5	学習到達度確認テスト、作業プリント
9	民主国家における基本原理		・民主政治の成立 ・民主政治の基本原理	民主主義の成り立ちと基本原理およびそれを支える思想について学ぶ。	6	学習到達度確認テスト、前期期末考査

10	日本国憲法の基本的性格		<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の基本的性格 ・人権の広がりと公共の福祉 	日本国憲法の特徴と成立までの歴史的背景を理解し、現在に至る人権の歴史と広がりについて学ぶ。	7	学習到達度確認テスト、作業プリント
11	日本の政治機構と政治参加		<ul style="list-style-type: none"> ・政治機構と国会 ・世論と政治参加 	行政・立法・司法の機構のあり方と課題について理解する。地方自治や選挙制度を学び、民主政治の現状と課題を理解する。	7	学習到達度確認テスト、作業プリント
12	現代の経済社会		<ul style="list-style-type: none"> ・経済主体と経済活動の意義 ・経済社会の変容 	経済の基本理論と資本主義経済の特徴を歴史的展開の中で理解する。	6	学習到達度確認テスト、後期中間考査
1	日本経済の特質と国民生活		<ul style="list-style-type: none"> ・戦後日本経済の成長と課題 ・転機に立つ日本経済 	日本経済の現状と、労働問題、社会保障問題等について理解する。	7	学習到達度確認テスト、作業プリント
2	国際政治の動向と課題		<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会と国際法 ・国際平和と日本の役割 	国際社会における諸機構や制度について広い視野で学ぶ。紛争の原因となる問題の背景や、軍縮について学ぶ。	5	学習到達度確認テスト、後期期末考査
3	国際経済の動向と課題		<ul style="list-style-type: none"> ・国際経済のつながりと課題 ・発展途上国の諸課題と日本の役割 	国際経済の動向や経済のグローバル化などについて学び、世界経済における日本の役割について考察する。	4	学習到達度確認テスト、作業プリント

計 64 時間 (55 分授業)

教科	数学	科目	数学Ⅱ (2年)	単位数	4単位	学年 (科)	2学年(国際文化科)
使用教科書	数研出版「NEXT 数学Ⅱ」						
副教材等	・数研出版「CONNECT 数学Ⅱ+B」 ・啓林館「Focus Gold Smart 数学Ⅱ+B+C」						

1 学習目標

「式と証明」「複素数と方程式」「図形と方程式」「三角関数」「指数関数と対数関数」「微分法と積分法」について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、それらを活用する態度を身につける。

2 指導の重点

- ①「計算練習プリント」→前時までの内容の復習・素早く正確な計算力を身に付ける。
- ②「日々課題・週末課題」→既習範囲を繰り返し確認・基本から応用まで幅広く演習する。
- ③「学習到達度確認問題」→短い単元の基礎的内容の理解・定着を確認する。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化した	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養うようにしている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養うようにしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・考査、学習到達度確認テストの分析 ・観察、式やグラフでの表現の観察 ・提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・考査、学習到達度確認テストの分析 ・授業中の発言、発表への取組の観察 ・提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表への取組の観察 ・提出物などの内容 の確認などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点
「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」
で評価します。

5 課題・提出物等

- ・授業の復習や模試対策の内容で、毎日の日々課題と毎週の週末課題を課します。必ず提出してください。課題は途中式などの考えた過程を必ず残してください。
- ・授業の最初に計算練習プリントで振り返りをします。日々の授業の復習を習慣づけてください。

6 学習アドバイス

- ①自分で考える力、論理的に考える力を身につける
数学Ⅱは、数学Ⅰを発展させた内容を扱い、授業内容もより高度になります。よく理解しないまま公式で解こうとするようなやり方では、すぐに行き詰まってしまいます。常に意味を考え、深く理解できるまで考えるようにしてください。
- ②CONNECT、Focus Gold Smart などの問題集を繰り返し解くことで基本を定着させる

条件に応じてどう考えれば良いのかを判断するために、まずは基礎的な考え方をもれなく習熟することが必要です。早期から繰り返しの学習に取り組み、まずは基本を完璧に身につけましょう。

③ハイレベルな問題に積極的に挑戦していく

基本が身についたら、発展課題や問題集の発展問題に取り組み、応用力を身につけましょう。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	Ⅱ 複素数と方程式		複素数と 2次方程式の解 高次方程式	<ul style="list-style-type: none"> 複素数の定義について学び、その意義を理解し、複素数の計算や2次方程式への利用について考察する。 剰余の定理・因数定理を用いて多項式・高次方程式について考察する。 	10	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 学習到達度確認テスト 課題 授業中の発言 発表への取組
	図形と方程式		点と直線	<ul style="list-style-type: none"> 座標や式を用いて、点や直線の基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用する。 	8	
5	図形と方程式		円	<ul style="list-style-type: none"> 座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用する。 	10	
			軌跡と領域	<ul style="list-style-type: none"> 条件を満たす点の軌跡を求めたり、不等式の表す領域を表したりすることで、事象の考察に活用する。 	8	
6	三角関数		三角関数	<ul style="list-style-type: none"> 角の概念を一般角まで拡張して、三角関数について理解し、それらを事象の考察に活用する。 	18	
7	三角関数		三角関数の 加法定理	<ul style="list-style-type: none"> 三角関数の加法定理や2倍角の公式・三角関数の合成について理解し、それらを方程式・不等式を解くために利用したり、事象の考察に活用したりする。 	10	
	指数関数 ・対数関数		指数関数	<ul style="list-style-type: none"> 指数の拡張や対数の定義について理解し、指数関数を事象の考察に活用する。 	6	
8・9	指数関数 ・対数関数 微分と積分		指数関数・対数関 数	<ul style="list-style-type: none"> 指数の拡張や対数の定義について理解し、指数関数及び対数関数を事象の考察に活用する。 	12	
			微分法	<ul style="list-style-type: none"> 微分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、様々なグラフへの利用について学び、事象の考察に活用する。 	8	
10	微分と積分		微分法・積分法	<ul style="list-style-type: none"> 微分と積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用する。 	18	
2・3	数学演習		数学演習	<ul style="list-style-type: none"> 数学ⅠAⅡBの総復習 	20	

計 128 時間 (55 分授業)

教科	数学	科目	数学B	単位数	2単位	学年 (科)	2学年(国際文化科)
使用教科書	数研出版「NEXT 数学B」						
副教材等	・数研出版「CONNECT 数学II+B」 ・啓林館「Focus Gold Smart 数学II+B+C」						

1 学習目標

「数列」「統計的な推測」について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、それらを活用する態度を身につける。

2 指導の重点

- ①「計算練習プリント」→前時までの内容の復習・素早く正確な計算力を身につける。
- ②「日々課題・週末課題」→既習範囲を繰り返し確認・基本から応用まで幅広く演習する。
- ③「学習到達度確認問題」→短い単元の基礎的内容の理解・定着を確認する。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化した	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養うようにしている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養うようにしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・考査、学習到達度確認テストの分析 ・観察、式やグラフでの表現の観察 ・提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・考査、学習到達度確認テストの分析 ・授業中の発言、発表への取組の観察 ・提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表への取組の観察 ・提出物などの内容 の確認などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点
「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」
で評価します。

5 課題・提出物等

- ・授業の復習や模試対策の内容で、毎日の日々課題と毎週の週末課題を課します。必ず提出してください。課題は途中式などの考えた過程を必ず残してください。
- ・授業の最初に計算練習プリントで振り返りをします。日々の授業の復習を習慣づけてください。

6 学習アドバイス

- ①自分で考える力、論理的に考える力を身につける
数学Bではより高度な内容を取り扱い、よく理解しないまま公式で解こうとするようなやり方では、すぐに行き詰まってしまいます。常に意味を考え、深く理解できるまで考えるようにしてください。
- ②CONNECT、Focus Gold Smart などの問題集を繰り返し解くことで基本を定着させる
条件に応じてどう考えれば良いのかを判断するために、まずは基礎的な考え方をもれなく習熟することが必要で

す。早期から繰り返しの学習に取り組み、まずは基本を完璧に身につけましょう。

③ハイレベルな問題に積極的に挑戦していく

基本が身についたら、発展課題や問題集の発展問題に取り組み、応用力を身につけましょう。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
1 1	数列		等差数列と 等比数列 いろいろな 数列	等差数列と要否数列について理解し、一般項や和を求める。 いろいろな数列の一般項や和について考察し、それらを事象の考察に活用する。	18	・定期考査 ・学習到達度 確認テスト ・課題
1 2	数列		漸化式と 数学的帰納法	漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを事象の考察に活用する。	18	・授業中の発言 ・発表への取組
1	統計的な推測		確率分布 統計的な推測	・確率変数とその分布、統計的な推測について理解し、それらを不確定な事象の考察に活用する。	18	
3	数学演習		数学演習	・数学 I A I B の総復習	10	

計 64 時間 (55 分授業)

教科	理数	科目	理数数学II	単位数	5単位	学年(科)	2学年(情報科学科)
使用教科書	数研出版「NEXT 数学II」、「NEXT 数学C」、「NEXT 数学III」						
副教材等	<ul style="list-style-type: none"> 数研出版「CONNECT 数学II+B」、「CONNECT 数学III」 啓林館「Focus Gold Smart 数学II+B+C」 						

1 学習目標

「式と証明」「複素数と方程式」「図形と方程式」「三角関数」「指数関数と対数関数」「微分法と積分法」「ベクトル」「関数」「極限」について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、それらを活用する態度を身につける。

2 指導の重点

- ①「計算練習プリント」→前時までの内容の復習・素早く正確な計算力を身に付ける。
- ②「日々課題・週末課題」→既習範囲を繰り返し確認・基本から応用まで幅広く演習する。
- ③「学習到達度確認問題」→短い単元の基礎的内容の理解・定着を確認する。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化した	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養うようにしている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養うようにしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・考査、学習到達度確認テストの分析 ・観察、式やグラフでの表現の観察 ・提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・考査、学習到達度確認テストの分析 ・授業中の発言、発表への取組の観察 ・提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表への取組の観察 ・提出物などの内容 の確認などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点
「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」
で評価します。

5 課題・提出物等

- ・授業の復習や模試対策の内容で、毎日の日々課題と毎週の週末課題を課します。必ず提出してください。課題は途中式などの考えた過程を必ず残してください。
- ・授業の最初に計算練習プリントで振り返りをします。日々の授業の復習を習慣づけてください。

6 学習アドバイス

- ①自分で考える力、論理的に考える力を身につける
数学II・B・Cは、授業内容もより高度になります。よく理解しないまま公式で解こうとするようなやり方では、すぐに行き詰まってしまいます。常に意味を考え、深く理解できるまで考えるようにしてください。
- ②CONNECT、Focus Gold Smart などの問題集を繰り返し解くことで基本を定着させる
条件に応じてどう考えれば良いのかを判断するために、まずは基礎的な考え方をもれなく習熟することが必要で

す。早期から繰り返しの学習に取り組み、まずは基本を完璧に身につけましょう。

③ハイレベルな問題に積極的に挑戦していく

基本が身についたら、発展課題や問題集の発展問題に取り組み、応用力を身につけましょう。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
	II 複素数と方程式		複素数と 2次方程式の解 高次方程式	・複素数の定義について学び、その意義を理解し、複素数の計算や2次方程式への利用について考察する。 ・剰余の定理・因数定理を用いて多項式・高次方程式について考察する。	7	・定期考査 ・学習到達度 確認テスト ・課題 ・授業中の発言 ・発表への取組
	図形と方程式		点と直線・円	・座標式を用いて点や直線・円の基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、事象の考察に活用する。	8	
5	図形と方程式		円 軌跡と領域	・条件を満たす点の軌跡を求めたり、不等式の表す領域を表したりすることで、事象の考察に活用する。	5 7	
	三角関数		三角関数	・角の概念を一般角まで拡張して、三角関数について理解し、それらを事象の考察に活用する。	3	
6	三角関数		三角関数 加法定理	・三角関数の加法定理や2倍角の公式・三角関数の合成について理解し、それらを方程式・不等式を解くために利用したり、事象の考察に活用したりする。	15	
7	指数関数 ・対数関数		指数関数 ・対数関数	・指数の拡張や対数の定義について理解し、指数関数を事象の考察に活用する。	13	
8・9	微分と積分		微分法・積分法	・微分と積分について理解し、有用性を認識するとともに、様々なグラフへの利用し、事象の考察に活用する。	16	
10	数列		等差数列と 等比数列 いろいろな数列	・等差数列・等比数列やいろいろな数列の一般項とその和について理解し、それらを事象の考察に活用する。	15	
11	数列		漸化式と 数学的帰納法	・漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを事象の考察に活用する。	8	
	統計的な推測		確率分布	・確率変数とその分布について理解し考察する。	7	
12	統計的な推測		確率分布 統計的な推測	・確率変数とその分布、統計的な推測について理解し、それらを不確定な事象の考察に活用する。	8	
	平面上のベクトル		ベクトルとその演算	・平面上のベクトルの意味や演算などについて理解する。	7	
1	平面上のベクトル		平面図形とベクトル	・ベクトルを用いて図形の性質を考察するなど、様々な考察に活用できるようにする。	10	
	空間のベクトル		空間のベクトル	・空間座標の意味について理解するとともに、ベクトルの考えを空間に拡張して、考察に活用する。	5	
2	空間のベクトル 関数		空間のベクトル 関数	分数関数や無理関数など様々な関数について考察する。	8 7	
3	極限		数列の極限	極限について理解し、様々な場合の極限值を求める。	11	

計 160 時間 (55 分授業)

教科	理数	科目	理数数学特論	単位数	1単位	学年(科)	2学年(情報科学科)
使用教科書	数研出版「NEXT 数学B」、「NEXT 数学C」						
副教材等	<ul style="list-style-type: none"> 数研出版「CONNECT 数学II+B」、「CONNECT 数学C」 啓林館「Focus Gold Smart 数学II+B+C」 						

1 学習目標

「式と証明」「複素数と方程式」「図形と方程式」「三角関数」「指数関数と対数関数」「微分法と積分法」「ベクトル」「関数」「極限」について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、それらを活用する態度を身につける。

2 指導の重点

- ①「計算練習プリント」→前時までの内容の復習・素早く正確な計算力を身に付ける。
- ②「日々課題・週末課題」→既習範囲を繰り返し確認・基本から応用まで幅広く演習する。
- ③「学習到達度確認問題」→短い単元の基礎的内容の理解・定着を確認する。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化した	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養うようにしている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養うようにしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・考査、学習到達度確認テストの分析 ・観察、式やグラフでの表現の観察 ・提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・考査、学習到達度確認テストの分析 ・授業中の発言、発表への取組の観察 ・提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表への取組の観察 ・提出物などの内容 の確認などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点
「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」
で評価します。

5 課題・提出物等

- ・授業の復習や模試対策の内容で、毎日の日々課題と毎週の週末課題を課します。必ず提出してください。課題は途中式などの考えた過程を必ず残してください。
- ・授業の最初に計算練習プリントで振り返りをします。日々の授業の復習を習慣づけてください。

6 学習アドバイス

- ①自分で考える力、論理的に考える力を身につける
数学II・B・Cは、授業内容もより高度になります。よく理解しないまま公式で解こうとするようなやり方では、すぐに行き詰まってしまいます。常に意味を考え、深く理解できるまで考えるようにしてください。
- ②CONNECT、Focus Gold Smart などの問題集を繰り返し解くことで基本を定着させる
条件に応じてどう考えれば良いのかを判断するために、まずは基礎的な考え方をもれなく習熟することが必要で

す。早期から繰り返しの学習に取り組み、まずは基本を完璧に身につけましょう。

③ハイレベルな問題に積極的に挑戦していく

基本が身についたら、発展課題や問題集の発展問題に取り組み、応用力を身につけましょう。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	Ⅱ 複素数と方程式		複素数と 2次方程式の解 高次方程式	・複素数の定義について学び、その意義を理解し、複素数の計算や2次方程式への利用について考察する。 ・剰余の定理・因数定理を用いて多項式・高次方程式について考察する。	1	・定期考査 ・学習到達度 確認テスト ・課題 ・授業中の発言 ・発表への取組
	図形と方程式		点と直線・円	・座標式を用いて点や直線・円の基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、事象の考察に活用する。	2	
5	図形と方程式		円 軌跡と領域	・条件を満たす点の軌跡を求めたり、不等式の表す領域を表したりすることで、事象の考察に活用する。	1	
	三角関数		三角関数	・角の概念を一般角まで拡張して、三角関数について理解し、それらを事象の考察に活用する。	1	
6	三角関数		三角関数 加法定理	・三角関数の加法定理や2倍角の公式・三角関数の合成について理解し、それらを方程式・不等式を解くために利用したり、事象の考察に活用したりする。	3	
7	指数関数 ・対数関数		指数関数 ・対数関数	・指数の拡張や対数の定義について理解し、指数関数を事象の考察に活用する。	3	
8・9	微分と積分		微分法・積分法	・微分と積分について理解し、有用性を認識するとともに、様々なグラフへの利用し、事象の考察に活用する。	4	
10	数列		等差数列と 等比数列 いろいろな数列	・等差数列・等比数列やいろいろな数列の一般項とその和について理解し、それらを事象の考察に活用する。	3	
11	数列		漸化式と 数学的帰納法	・漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを事象の考察に活用する。	2	
	統計的な推測		確率分布	・確率変数とその分布について理解し考察する。	1	
12	統計的な推測		確率分布 統計的な推測	・確率変数とその分布、統計的な推測について理解し、それらを不確定な事象の考察に活用する。	2	
	平面上のベクトル		ベクトルとその演算	・平面上のベクトルの意味や演算などについて理解する。	1	
1	平面上のベクトル		平面図形とベクトル	・ベクトルを用いて図形の性質を考察するなど、様々な考察に活用できるようにする。	2	
	空間のベクトル		空間のベクトル	・空間座標の意味について理解するとともに、ベクトルの考えを空間に拡張して、考察に活用する。	1	
2	空間のベクトル 関数		空間のベクトル 関数	分数関数や無理関数など様々な関数について考察する。	2	
						1
3	極限		数列の極限	極限について理解し、様々な場合の極限值を求める。	1	

計 32 時間 (55 分授業)

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	2	学年 (科)	2 学年 (国際文化科)
使用教科書	数研出版『化学基礎』						
副教材等	数研出版『リードα化学基礎』 第一学習社『十訂版スクエア最新図説化学』						

1 学習目標

- 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。
- 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 指導の重点

- 様々な化学的事象に関心を持ち、それらの事象を化学的に分析しようとする態度を養う。
- 実験やモデルを通じた活動を通して、化学的に思考する能力と態度を育てる。
- 基本的な概念や原理・法則を理解する。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 自然の事象・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解できる。 観察・実験活動を通じて、実験器具や装置の基本的な操作方法や、それらの結果や過程の記録・整理など、科学的に探究することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの事象の中に問題を見だし、それらを科学的に考察・検証し、そこから導き出した考えを的確に表現する事ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究し、科学的に物事を考えることができる。 基本的な事項を習得するために、日常的に学習に取り組むことができる。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> 定期考査 授業内の実験及び演習 発問に対する回答 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> 定期考査 授業中の活動への取組状況 授業内の実験及び演習 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> 学習到達度確認問題 実験レポート 授業中の活動への取組状況 などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点

「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」

で評価します。

5 課題・提出物等

- 日常的な自学・自習 (これが最も重要なことです！)
- 週末課題・長期休暇中の課題
- 実験レポート等

6 学習アドバイス

- 単に知識・用語の暗記にとらわれず、身の回りで起きている事象と結びつけて学習することが、化学の面白さを知り、コンピテンシーを獲得することにつながるはずです。
- 授業で学んだことについて、その日のうちに知識や計算方法を見直し自分の物にしていくことが大切です。副教材「リードα」を有効に活用してください。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法		
4	第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成	1 混合物と純物質 2 物質とその成分 3 物質の三態と熱運動	「化学基礎」 (数研出版)	・多種多様な物質を観察することによってそれらを整理・分類し、共通した要素や、個々の相違点を調べることによって、物質の成り立ちを追求する。	5	<ul style="list-style-type: none"> 教科書中の問題・実験・活動等に取り組みさせる。 学習到達度確認問題に取り組みさせる。 身の回りの疑問について調査を行い、報告させる。 日常的に学習に取り組んだ成果を報告させる。 定期考査に取り組みさせる。 		
	5	第2章 物質の構成粒子		1 原子とその構造 2 イオン 3 周期表	・物質を理解する基礎として、物質を構成する基礎的な粒子である原子と、原子から生じるイオンや原子が種々の方法で結合した物質について、その構造や表しかた、それらの関係を学ぶ。		6	
6		第3章 粒子の結合		1 イオン結合とイオン結晶 2 共有結合と分子 3 配位結合 4 分子間にはたらく力 5 高分子化合物 6 共有結合の結晶 7 金属結合と金属結晶	<ul style="list-style-type: none"> 物質が連続性をもたない小さな粒子からなることは中学でも学習しているが、個々の粒子がどのようなしくみで結合しているかは、簡単に触れただけで終わっている。ここではそれをさらに詳しく扱うことによって、物質の性質との関連も同時に学ぶ。 前期中間考査 		11	
	7	第2編 物質の変化 第1章 物質質量と化学反応式		1 原子量・分子量・式量 2 物質質量 3 溶液の濃度 4 化学反応式と物質質量	<ul style="list-style-type: none"> 原子の質量はきわめて小さいため、原子量という概念によって異なる元素の原子の質量が比較しやすくなることを理解する。それをもとに、分子量や式量の定義を学ぶ。 前期末考査 		14	
	8	10		第2章 酸と塩基の反応	1 酸・塩基 2 水素イオン濃度とpH 3 中和反応と塩 4 中和滴定			<ul style="list-style-type: none"> 酸・塩基の定義や酸性・塩基性について、その本質が何であるかを考え、酸性・塩基性の強さの度合いの表し方を学ぶ。また、pHの表し方・中和の量的関係を学び、中和によって生じる塩の水溶液は必ずしも中性でないことにもふれる。 後期中間考査
	9				12			第3章 酸化還元反応
11	1	2		3			14	
12							14	
1							14	

計 64 時間 (55 分授業)

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	2	学年 (科)	2 学年 (情報科学科)
使用教科書	数研出版『化学基礎』						
副教材等	数研出版『リードα化学基礎』 第一学習社『十訂版スクエア最新図説化学』						

1 学習目標

- 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。
- 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 指導の重点

- 様々な化学的事象に関心を持ち、それらの事象を化学的に分析しようとする態度を養う。
- 実験やモデルを通じた活動を通して、化学的に思考する能力と態度を育てる。
- 基本的な概念や原理・法則を理解する。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 自然の事象・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解できる。 観察・実験活動を通じて、実験器具や装置の基本的な操作方法や、それらの結果や過程の記録・整理など、科学的に探究することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの事象の中に問題を見だし、それらを科学的に考察・検証し、そこから導き出した考えを的確に表現する事ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究し、科学的に物事を考えることができる。 基本的な事項を習得するために、日常的に学習に取り組むことができる。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> 定期考査 授業内の実験及び演習 発問に対する回答 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> 定期考査 授業中の活動への取組状況 授業内の実験及び演習 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> 学習到達度確認問題 実験レポート 授業中の活動への取組状況 などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点

「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」

で評価します。

5 課題・提出物等

- 日常的な自学・自習 (これが最も重要なことです！)
- 週末課題・長期休暇中の課題
- 実験レポート等

6 学習アドバイス

- 単に知識・用語の暗記にとらわれず、身の回りで起きている事象と結びつけて学習することが、化学の面白さを知り、コンピテンシーを獲得することにつながるはずです。
- 授業で学んだことについて、その日のうちに知識や計算方法を見直し自分の物にしていくことが大切です。副教材「リードα」を有効に活用してください。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法		
4	第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成	1 混合物と純物質 2 物質とその成分 3 物質の三態と熱運動	「化学基礎」 (数研出版)	・多種多様な物質を観察することによってそれらを整理・分類し、共通した要素や、個々の相違点を調べることによって、物質の成り立ちを追求する。	5	<ul style="list-style-type: none"> 教科書中の問題・実験・活動等に取り組みさせる。 学習到達度確認問題に取り組みさせる。 身の回りの疑問について調査を行い、報告させる。 日常的に学習に取り組んだ成果を報告させる。 定期考査に取り組みさせる。 		
	第2章 物質の構成粒子	1 原子とその構造 2 イオン 3 周期表		・物質を理解する基礎として、物質を構成する基礎的な粒子である原子と、原子から生じるイオンや原子が種々の方法で結合した物質について、その構造や表しかた、それらの関係を学ぶ。	6			
5	第3章 粒子の結合	1 イオン結合とイオン結晶 2 共有結合と分子 3 配位結合 4 分子間にはたらく力 5 高分子化合物 6 共有結合の結晶 7 金属結合と金属結晶		<ul style="list-style-type: none"> 物質が連続性をもたない小さな粒子からなることは中学でも学習しているが、個々の粒子がどのようなしくみで結合しているかは、簡単に触れただけで終わっている。ここではそれをさらに詳しく扱うことによって、物質の性質との関連も同時に学ぶ。 前期中間考査 	11			
	第2編 物質の変化 第1章 物質と化学反応式	1 原子量・分子量・式量 2 物質質量 3 溶液の濃度 4 化学反応式と物質質量		・原子の質量はきわめて小さいため、原子量という概念によって異なる元素の原子の質量が比較しやすくなることを理解する。それをもとに、分子量や式量の定義を学ぶ。	14			
6								
7	第2章 酸と塩基の反応	1 酸・塩基 2 水素イオン濃度とpH 3 中和反応と塩 4 中和滴定		・酸・塩基の定義や酸性・塩基性について、その本質が何であるかを考え、酸性・塩基性の強さの度合いの表し方を学ぶ。また、pHの表し方・中和の量的関係を学び、中和によって生じる塩の水溶液は必ずしも中性でないことにもふれる。	14			
8								
9	第3章 酸化還元反応	1 酸化と還元 2 酸化剤と還元剤 3 金属の酸化還元反応 4 酸化還元反応の利用		<ul style="list-style-type: none"> 前章では水素イオンの授受によって酸・塩基を考えてきたが、ここでは電子の授受によって考えられる現象として酸化・還元を学ぶ。その場合、酸化数という便利な指標を用いて酸化・還元を統一的に考え、理解を深める。 電池や電気分解、金属の精錬等について酸化還元反応とあわせて学習する。 前期末考査 	14			

計 64 時間 (55 分授業)

* 第2学年前期に化学基礎(2単位)をまとめて履修し、後期に化学(3単位)をまとめて履修する。

教科	理数	科目	理数化学	単位数	3	学年 (科)	2学年 (情報科学科)
使用教科書	数研出版『化学』						
副教材等	数研出版『リードα化学基礎+化学』 第一学習社『10訂版スクエア最新区説化学』						

1 学習目標

- 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。
- 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 指導の重点

- 様々な化学的事象に関心を持ち、それらの事象を化学的に分析しようとする態度を養う。
- 実験やモデルを通じた活動を通して、化学的に思考する能力と態度を育てる。
- 基本的な概念や原理・法則を理解する。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 自然の事象・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解できる。 観察・実験活動を通じて、実験器具や装置の基本的な操作方法や、それらの結果や過程の記録・整理など、科学的に探究することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの事象の中に問題を見だし、それらを科学的に考察・検証し、そこから導き出した考えを的確に表現する事ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究し、科学的に物事を考えることができる。 基本的な事項を習得するために、日常的に学習に取り組むことができる。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> 定期考査 授業内の実験及び演習 発問に対する回答 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> 定期考査 授業中の活動への取組状況 授業内の実験及び演習 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> 学習到達度確認問題 実験レポート 授業中の活動への取組状況 などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点
「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」
で評価します。

5 課題・提出物等

- 日常的な自学・自習 (これが最も重要なことです！)
- 週末課題・長期休暇中の課題
- 実験レポート等

6 学習アドバイス

- 単に知識・用語の暗記にとらわれず、身の回りで起きている事象と結びつけて学習することが、化学の面白さを知り、コンピテンシーを獲得することにつながるはずです。
- 授業で学んだことについて、その日のうちに知識や計算方法を見直し自分の物にしていくことが大切です。副教材「リードα」を有効に活用してください。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
9	第1編 物質の状態 第1章 結晶とアモルファス	1 結晶とアモルファス 2 金属結晶 3 イオン結晶 4 分子間力と分子結晶 5 共有結合の結晶	「化学 (数研出版)	・「化学基礎」では、イオン結合、共有結合、金属結合でできた物質について学習しているので、本章ではそれらの知識と関連付けながら固体の結晶格子の概念とそれぞれの結晶の構造について理解する。	6	<ul style="list-style-type: none"> 教科書中の問題・実験・活動等に取り組みさせる。 学習到達度確認問題に取り組みさせる。 身の回りの疑問について調査を行い、報告させる。 日常的に学習に取り組んだ成果を報告させる。 定期考査に取り組みさせる。
	第2章 物質の状態変化	1 粒子の熱運動 2 三態の変化とエネルギー 3 気液平衡と蒸気圧		・「化学基礎」では、粒子の熱運動と物質の三態変化との関係について学習している。本章では、状態変化に伴うエネルギーの出入りや化学結合と融点・沸点の関係を理解するとともに、気液平衡や蒸気圧、状態図についても理解する。	5	
10	第3章 気体	1 気体の体積 2 気体の状態方程式 3 混合気体の圧力 4 実在気体		・「化学基礎」では、標準状態における物質量と気体の体積との関係について学習している。本章では、理想気体の状態方程式について理解をし、それを利用した分子量計算についても理解する。また、混合気体に対する考え方や実在気体と理想気体の違いについても理解する。	11	
	第4章 溶液	1 溶解とそのしくみ 2 溶解度 3 希薄溶液の性質 4 コロイド溶液		<ul style="list-style-type: none"> ・「化学基礎」では、溶液のモル濃度について学習している。本章では、溶解のしくみを理解するとともに、固体および気体の溶解度を溶解平衡と関連付けて理解する。また、希薄溶液とその性質やコロイド溶液の性質について、身近な現象と結びつけながら理解する。 ・後期中間考査 	13	
11	第2編 物質の変化 第1章 化学反応とエネルギー	1 化学反応と熱 2 ヘスの法則 3 化学反応と光		<ul style="list-style-type: none"> ・本章では、化学反応の前後における物質のもつ化学エネルギーの差が熱の発生や吸収となって現れ、その熱量の変化をエンタルピー変化として記述することを理解する。さらにヘスの法則を用いることで、測定が困難な反応エンタルピーを求めることができることを理解する。また、化学反応には光の発生や吸収も伴うものがあることも、具体的な反応を交えながら理解する。 	8	
	第2章 電池と電気分解	1 電池 2 電気分解		・「化学基礎」では、酸化還元反応が電子の授受によることや金属のイオン化傾向、ダニエル電池の反応について学習をしている。本章では、電気エネルギーを取り出す電池のしくみを酸化還元反応と関連付けて理解する。	9	

12	第3章 化学反応の速さとしくみ	1 化学反応の速さ 2 反応条件と反応速度 3 化学反応のしくみ	「化学」(数研出版)	<ul style="list-style-type: none"> 本章では、化学反応の反応速度の表し方とともに、反応速度と反応条件(濃度、温度、触媒)の関係や反応のしくみ、触媒の利用について理解する。 	6	<ul style="list-style-type: none"> 教科書中の問題・実験・活動等に取り組みさせる。 学習到達度確認問題に取り組みさせる。 身の回りの疑問について調査を行い、報告させる。 日常的に学習に取り組んだ成果を報告させる。 定期考査に取り組みさせる。
1	第4章 化学平衡	1 可逆反応と化学平衡 2 平衡状態の変化 3 電解質水溶液の化学平衡		<ul style="list-style-type: none"> 本章では可逆反応と化学平衡、ルシャトリエの原理に基づく化学平衡の移動について理解する。また「化学基礎」では酸や塩基の強弱と電離度の大小との関係、水素イオン濃度と pH との関係について学習しているが、本章では電解質水溶液における電離平衡について理解し、濃度や電離度と電離定数の関係やそれらを利用した pH の求め方を理解する。またこれらの考え方をを用いた緩衝液や溶解度積についても理解する。 後期末考査 	15	
2	第3編 無機物質 第1章 非金属元素	1 元素の分類と周期表 2 水素・希ガス元素 3 ハロゲン元素 4 酸素・硫黄 5 窒素・リン 6 炭素・ケイ素		<ul style="list-style-type: none"> 「化学基礎」では、元素の周期律および原子の電子配置と周期表の族や周期との関係、化学結合に関連して幾つかの無機物質について学習している。本章では元素を周期表に基づいて族ごとに分類し、性質が似た元素の単体や化合物ごとにその性質を理解する。 	9	
	第2章 金属元素(I)～典型元素～	1 アルカリ金属元素 2 アルカリ土類金属元素 3 アルミニウム・スズ・鉛		<ul style="list-style-type: none"> 本章では、非金属元素と同様に典型非金属元素もその性質が周期表に基づいて整理できることを理解し、それぞれの典型金属元素の単体や化合物の性質を理解する。 	7	
3	第3章 金属元素(II)～遷移元素～	1 遷移元素の特徴 2 鉄 3 銅 4 銀・金 5 亜鉛 6 クロム・マンガン 7 その他の金属元素 8 金属イオンの分離・確認		<ul style="list-style-type: none"> 本章では、遷移元素の単体とその化合物の性質について理解する。遷移元素が典型元素と違い、同一周期でその性質が似ていることを理解したうえで、身近な金属である鉄や銅、銀、亜鉛などを中心に、単体や化合物、イオンなど特徴的な性質を理解する。 	7	

計96時間(55分授業)

*第2学年前期に化学基礎(2単位)をまとめて履修し、後期に化学(3単位)をまとめて履修する。

教科	理科	科目	理数生物	単位数	3単位	学年 (科)	2学年 (情報科学科)
使用教科書		・数研出版『生物』					
副教材等		・数研出版『リードα生物』 ・浜島書店『ニューステージ新生物図表』					

1 学習目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。

2 指導の重点

- ① 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- ② 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- ③ 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けようとしている。	生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究しようとしている。	生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点

「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」

で評価します。

5 課題・提出物等

週末課題、長期休業課題、実験レポート、授業ノートやプリント、ワークシートの提出を課します。(別途指示します。)

6 学習アドバイス

①授業内での完全理解を目指そう。

授業の前にあらかじめ教科書を読み、分かりにくい部分や疑問点を探しましょう。授業でとるノートは、授業の内容を思い出し、定着させるためにとるものと認識してください。つまり、授業中に生じた疑問や解説も書くようにしましょう。多くの生物用語が出てきますが、その意味を理解し、適切に使えるようにしましょう。実際にいる身近な生き物や様々な生命現象を、学んだ知識と関連付けて理解するように学習しましょう。各種課題の作成においては、自ら関心をもって調べるなど、積極的に取り組みましょう。

②家庭学習は復習中心。

家庭学習では、問題集を中心に、授業で取り組んだ内容を復習しましょう。授業で身につけた知識を定着させるように継続して取り組むこと。また、応用問題にも取り組みながら、より深い理解と実践力をつけていくこと。学習到達度確認問題や、定期考査で確認を行い、適宜学習活動を改善しながら実力向上に努めましょう。

④ 生物の授業では

生物に関心を持つという観点から、授業では、現在行われている研究や最先端の生物学の話も展開する予定です。興味を持っている分野があったら、積極的に調べてみてください。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	第1章 生物の進化		教科書 副教材	・生命の起源と生物の進化	8	学習到達度確認問題 提出物の確認
5			教科書 副教材	・遺伝子の変化と多様性 ・遺伝子の組み合わせの変化	9	学習到達度確認問題 提出物の確認
6			教科書 副教材	・進化のしくみ ・生物の系統と進化 ・人類の系統と進化	9	学習到達度確認問題 提出物の確認 前期中間考査
7	第2章 細胞と分子		教科書 副教材	・生体物質と細胞 ・タンパク質の構造と性質	9	学習到達度確認問題 提出物の確認
8			教科書 副教材	・化学反応にかかわるタンパク質	3	学習到達度確認問題 提出物の確認
9				膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質	6	前期期末考査
10	第3章 代謝		教科書 副教材	・代謝とエネルギー ・呼吸と発酵	9	学習到達度確認問題 提出物の確認
11			教科書 副教材	・光合成	9	学習到達度確認問題 提出物の確認
12	第4章 遺伝情報の発現と発生		教科書 副教材	・DNAの構造と複製 ・遺伝情報の発現	9	学習到達度確認問題 提出物の確認 後期中間考査
1			教科書 副教材	・遺伝子の発現調節	9	学習到達度確認問題 提出物の確認
2			教科書 副教材	・発生と遺伝子発現 ・遺伝子を扱う技術	9	学習到達度確認問題 提出物の確認 後期期末考査
3				・1年間のまとめ	7	

計96時間 (55分授業)

教科	理科	科目	理数物理	単位数	3単位	学年 (科)	2学年 (情報科学科)
使用教科書		東京書籍『物理』					
副教材等		啓林館『ステップアップノート物理改訂版』					

1 学習目標

物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の系統的な理解を深め、科学的な自然観を育成する。

2 指導の重点

法則や式の意味を考える。「丸暗記」に頼らずに学習内容の定着を図るため、必要な問題演習を確保する。また、実験的な要素も取り入れ、視覚的なイメージを持つことができるようにする。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自然の事象・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解している。	身の回りの事象の中に問題を見だし、それらを科学的に考察・検証し、そこから導き出した考えを的確に表現しようとしている。	自然現象に関心をもち、意欲的にそれらを探求し、科学的に物事を考えようとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査、学習到達度確認問題 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査、学習到達度確認問題 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点

「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」
で評価します。

5 課題・提出物等

- ・毎週の週末課題があります。
- ・長期休業中の課題は別途指示します。

6 学習アドバイス

物理の問題を解けるようにするには、「こうすれば必ず解ける」という特効薬はありません。

1つ1つの問題とじっくり向き合い、自分の頭で考え解決方法を見つけ出すしかありません。

・式をつくるコツ

step1 頭をかきながら考える。作図は物理の生命線です。(力や速度などを矢印で表します。)

さらに必要な記号や物理量(長さ、質量、速度などを物理量という)などを記入していけば、どの法則や公式を使えばよいか見えてくるはずです。

step2 法則や式の意味を考える。「丸暗記」は物理の大敵です。(法則・式は使えるように覚える。)

step3 用語や定義は正確に把握する。公式を導けるように繰り返し練習する。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	力と運動		教科書 副教材	剛体にはたらく力	8	学習到達度確認問題 提出物の確認
5			教科書 副教材	平面上の運動と放物運動	9	学習到達度確認問題 提出物の確認
6			教科書 副教材	円運動と万有引力	9	学習到達度確認問題 提出物の確認 前期中間考査
7			教科書 副教材	単振動	9	学習到達度確認問題 提出物の確認
9			教科書 副教材	運動量	9	学習到達度確認問題 提出物の確認 前期期末考査
10	熱		教科書 副教材	気体分子の運動と圧力	9	学習到達度確認問題 提出物の確認
11			教科書 副教材	気体の状態変化	9	学習到達度確認問題 提出物の確認 後期中間考査
12	波動		教科書 副教材	波の性質	9	学習到達度確認問題 提出物の確認
1			教科書 副教材	音の伝わり方	9	学習到達度確認問題 提出物の確認
2 3			教科書 副教材	光	16	学習到達度確認問題 後期期末考査 提出物の確認

計96時間(55分授業)

教科 (科目)	体育	単位数(時数)	2 単位	学年 (科)	2 学年 (国際文化科・情報科学科)
使用教科書	大修館書店『現代高等保健体育』				
副教材等	なし				

1. 学習目標

運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

2. 指導の重点

- ①各種の運動をとおして運動技能の向上を図り、バランスのとれた身体の発達を促すとともに、公正・協力・責任などの態度を育てる。
- ②運動する習慣を身に付け、基礎体力と柔軟性の向上を目指す。

3. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に自主的に取り組もうとしている。

4. 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に自主的に取り組もうとしている。
評価方法	授業への取り組み（授業態度、学習活動への参加状況）や定期考査、技能テスト等を上記の観点から総合的に評価します。 前期、後期ごとに各観点 「A：十分満足できる」、 「B：おおむね満足できる」、 「C：努力を要する」 で評価します。		

5. 課題・提出物等

適宜指示があります。

6. 学習アドバイス

- ①自分自身の健康や体力に関心を持つ。
- ②各領域の運動特性を理解しよう。
- ③生涯にわたってスポーツを主体的に実践していく態度と方法を身に付けよう。

7. 学習計画

月	単元名	授業時数	教材名	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
4	体づくり運動	7	体ほぐしの運動 体力を高める運動 スポーツテスト	・各種体ほぐしの運動 ・整列や列の増減の方法 ・体力向上を目指したサーキットトレーニング ・スポーツテストの8項目測定	a b c	授業の取組
5	陸上競技	7	長距離走	・持久走, 大学往復走 (5km)	a b c	記録測定
6 7	陸上競技 または 器械運動	10	障害走・跳躍・持久走 跳び箱運動, 鉄棒運動(自由演技)	・50mハードル・走り幅跳び ・3～4種目の演技構成を含む自由演技	a b c	記録測定 演技発表
8	体育理論	6	運動・スポーツの 学び方	・スポーツにおける技能と体力 ・スポーツにおける技術と戦術 ・技能の上達過程と練習 ・効果的な動きのメカニズム ・体力トレーニング ・運動やスポーツでの安全の確保	a b c	定期考査
9 10	球技Ⅰ	12	屋外球技選択 ・サッカー ・ソフトボール ・テニス 1種目を選択	・ドリブル, パス, シュート, ストローク, ボレー, キャッチボール, バッティング等の基本動作を習得し, 簡易ゲームを行う。	a b c	技能テスト
11 12	武道	10	柔道	・足技, 腰技, 手技の習得 ・投げ技に即した受け身 ・簡易試合	a b c	技能テスト
1 2 3	球技Ⅱ	12	屋内球技選択 ・バスケットボール ・バレーボール ・バドミントン ・卓球 1種目を選択	・ドリブル, パス, シュート等の基本動作を習得し, ゲームを行う。なお, バドミントン, 卓球はシングルスおよびダブルスのルールを習得する。	a b c	技能テスト

計64時間（55分授業）

教科 (科目)	保健	単位数(時数)	1 単位	学年 (科)	2 学年 (国際文化科・情報科学科)
使用教科書	大修館書店『現代高等保健体育』				
副教材等	大修館書店『図説現代高等保健』				

1. 学習目標

個人および社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

2. 指導の重点

- ①健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるという「ヘルスプロモーション」の考え方を学ぶ。
- ②ヘルスプロモーションの考え方を生かし、健康に関する個人の適切な意志決定や行動選択および健康的な社会環境づくりなどの重要性について理解を深める。

3. 評価の観点の趣旨

知識	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること。また、健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。健康の保持増進には、ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わることを理解している。 ・感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを理解している。 ・健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であることを理解している。 ・喫煙と飲酒は、生活習慣病などの要因になること。また、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと。それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であることを理解している。 ・精神疾患の予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践するとともに、心身の不調に気付くことが重要であること。また、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会と健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であること。また、交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備が関わること。交通事故には補償をはじめとした責任が生じることを理解している。</p> <p>・適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順や方法があること。また、応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があることを理解しているとともに、心肺蘇生法などの応急手当を適切に行う技能を身に付けている。</p>	<p>・安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、それらを表現している。</p>	<p>・安全な社会生活についての学習に主体的に取り組もうとしている。</p>

4. 評価規準と評価方法

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	「3. 評価の観点の趣旨」と同様		
評価方法	<p>上記の観点から、授業の取り組み（授業態度、学習活動への参加状況）、定期考査、レポートなどを総合的に評価する。</p> <p>前期、後期ごとに各観点 「A：十分満足できる」、 「B：おおむね満足できる」 「C：努力を要する」で評価します。</p>		

5. 課題・提出物等

<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究レポート ・課題研究発表の要約や意見をまとめた発表の記録 	その他、適宜指示があります。
--	----------------

6. 学習アドバイス

<p>①自分自身の生活習慣を振り返り、身近な課題として現代の健康問題を捉えよう。</p> <p>②個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどの重要性を理解しよう。</p>

7. 学習計画

月	単元名	授業時数	教材名	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
4 5 6 7	生涯を通じる健康	8	ライフステージと健康 思春期と性 妊娠と出産 避妊法と人工妊娠中絶 結婚生活と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージと健康 ・思春期と健康 ・性意識と性行動の選択 ・妊娠・出産と健康 ・避妊法と人工妊娠中絶 ・結婚生活と健康 	a b c	授業の様子と定期考査 ↓

		3	中高年期と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・加齢に伴う心身の変化と健康 ・高齢者のための社会的取り組み 	a b c		
9	社会生活と健康 健康を支える環境づくり	2	課題研究 オリエンテーション	<社会生活と健康> <ul style="list-style-type: none"> ・労働、職業生活と健康 ・大気汚染 ・水質汚濁 ・土壌汚染 ・環境汚染 ・環境と健康、環境衛生活動 ・食品保健 ・労働と健康 上記7分野から1つを選択し、夏休み中に研究レポートを作成する。また、1 班数名で班分けも行う。	a b c	レポート	前期 期末考査
10							
11		4	課題研究発表準備	<ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに発表準備を行う。 	a b c		
12		8	課題研究発表	<ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに発表する 	a b c	発表の様子 提出物	
1 2		5	医療保険サービスとその活用	<ul style="list-style-type: none"> ・保険サービスとその活用 ・医療サービスとその活用 ・医薬品の制度とその活用 ・様々な保健活動や社会的対策 ・健康に関する環境づくりと社会参加 	a b c		後期 期末考査
3		2	復習	<ul style="list-style-type: none"> ・2年間の総復習 			

計32時間（55分授業）

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数	2	学年(科)	2学年
使用教科書	大修館書店 クリエイティブ・リビング家庭基礎で生活をつくろう						
副教材等	教育図書 LIFE おとなガイド						

1 学習目標

日々の生活において、衣食住や経済、法制度を学び今ある生活をよりよくする姿勢を持つ。見識を広め、様々な人々と協働し、生活文化の創造に励む。

2 指導の重点

目まぐるしく変化する社会の中で自己の課題を理解し、互いを理解しあう考え方や、健康で安全な生活をおくるための知識、技術、持続可能な社会生活との関わり方を習得する。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
家庭生活に関する基本的な知識や技術をもとに社会生活を健全におくるための知識、技術を持っている。	家庭や地域の生活についての問題解決について適切に判断できる能力を持っている。	家庭や地域の生活について諸問題を自ら解決する力を持っている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	家庭生活に関する基本的な知識や技術をもとに社会生活を健全におくるための知識、技術を持っている。	家庭や地域の生活についての問題解決について適切に判断できる能力を持っている。	家庭や地域の生活について諸問題を自ら解決する力を持っている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・ノート、プリント学習 ・実習、製作の完成度 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・ノート、プリント学習 ・実習、製作レポート などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業態度 ・実習、製作の取り組み ・グループ学習 などから、評価します。

内容のまとまりごとに、各観点

「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。

5 課題・提出物等

授業ノート、プリント、実習や製作の調理物、作品 振り返りレポート等

6 学習アドバイス

近い将来の独り立ちにむけて、諸契約に関する知識と行動のしかたが求められています。その意思決定にはどのようなプロセスがあるか、主体的に学んでください。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	家庭基礎を学ぶ 家庭クラブとホームプロジェクト	家庭	導入 青年期の課題 ノート、プリント	各単元の流れ、家庭科の目標	2	レポート ノート 授業の発問態度
5	青年期の課題 衣生活	家庭、家族、 青年期 衣生活	青年期の課題 プリント 衣生活実習	自分の将来について考える ライフスタイル、ライフステージの課題 ミシン製作と製作の知識	4 8	プリント 裁縫技能
6	衣生活のマネジメント	衣生活	衣生活における合理性、ノート	被服素材の知識、特徴、手入れ 身の回りの諸課題解決レポート	2	衣生活実験
7	生活のデザイン		生活デザイン	ホームプロジェクト		レポート
8	食生活のマネジメント	食生活	食の現状 ノート	食や栄養の知識、食文化の理解 栄養素のはたらき 安全、衛生的な調理実習	1 4	調理実習の取り組み、プリント、レポート
9	前期考査					
10	食生活のマネジメント	食生活	食生活の諸問題	食生活をめぐる問題についての理解	4	プリント ノート
11	子どもの生活	子ども、高齢者	子どもの生活	子どもの心身の発達、発達課題	4	子ども、高齢
	高齢期の生活		高齢期の生活	高齢期の特徴 (DVD 視聴、グループ学習)	4	期 DVD レポー
	共生社会、環境	共生社会	共生		4	ト
12		消費、家庭	副教材、おと	誰もが住みやすい持続可能な社会		
1	消費生活マネジメント	経済	なノート	経済的な自立、家庭経済の収支	1 0	副教材
2	学年末考査					
	住生活	住生活	住居実習	住まいのはたらき、住居シールの	6	実習ノート
	ライフプラン	家族	自分の未来	製作 ライフプランをたてる	2	作品

計64 時間 (55分授業)

教科	英語	科目	総合英語II	単位数	5単位	学年（科）	2学年（国際文化科）
使用教科書	東京書籍『ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATION II』						
副教材等	東京書籍『ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATION II WORKBOOK』、旺文社『Target1900』、リクルート『スタディサプリ 英語4技能コース』						

1 学習目標

英語学習の特質を踏まえ、五つの領域（聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くこと）の言語活動及びこれらをつなげた統合的な言語活動を通して、外国語を用いて詳しくコミュニケーションを図る資質・能力を一体的に育成することを目指す。

2 指導の重点

日常的な話題や社会的な話題について、次のことができるようになることを目指します。

- ① 必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすること。
- ② 必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすること。
- ③ 多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく論理的に注意して話して伝え合うこと。
- ④ 聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく論理的に注意して話して伝えること。
- ⑤ 聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく論理的に注意して文章を書いて伝えること。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 多様な外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 多様な外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。 	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ペーパーテスト パフォーマンステスト ワークシート、提出物 振り返りシート 授業中の活動への取組状況 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ペーパーテスト パフォーマンステスト ワークシート、提出物 振り返りシート 授業中の活動への取組状況 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> ペーパーテスト パフォーマンステスト ワークシート、提出物 振り返りシート 授業中の活動への取組状況 などから評価します。

内容のまとめりに、各観点
「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。

5 課題・提出物等

- 毎週小テストがあります。 ・日々課題としてスタディサプリに取り組みます。
- 週末課題や長期休業中の課題は別途指示します。 ・ 考査毎にパフォーマンステストを実施します。
- 考査毎に振り返りシートに記入し、提出することになります。

6 学習アドバイス

(予習+授業+復習) × ∞ → テスト → 振り返り → 改善 → → → 英語力アップ
 「継続は力なり」ではありますが、上のサイクルに、自分なりの楽しみ(プラスα)を加えてほしいです。1年生での経験をいかして、自分の学習方法を確立しよう。自主的、積極的な姿勢で臨みましょう。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	Unit1 What can we do to prevent endemic species from becoming extinct?		・博物館のガイドブック ・ガイドの説明 ・プレゼンテーション	・情報を読み取る ・主要な情報を聞き取る ・資料を活用して書く ・重要な点を強調する	16	・ワークシート ・パフォーマンステスト ・定期考査 ・振り返りシート
5	Unit2 Which sports can really be called sports?		・ウェブの記事 ・ディベート	・説明を読み取る ・肯定と否定の主張を聞き取る ・主張と根拠を伝え合う	16	・提出物、小テスト
6	Unit3 How do we choose what we eat?		・新聞記事 ・日常会話 ・ライティング	・2つの異なる主張を読み取る ・習慣を聞き取る ・勧めるものや感想を書く	16	・ワークシート ・パフォーマンステスト ・定期考査
7 8	Unit4 How have inventions changed history?		・科学雑誌の記事 ・プレゼンテーション	・経緯と結果を読み取る ・論理の構成を意識して説得力ある話し方をする	16	・振り返りシート ・提出物、小テスト
9	Unit5 What can we learn from traveling?		・ウェブの記事 ・ニュース動画 ・エッセイ	・利点と欠点を読み取る ・構成を意識して複数のパラグラフを書く	16	・ワークシート ・パフォーマンステスト ・定期考査
10	Unit6 How do people's personalities affect their behavior?		・ウェブのインタビュー記事 ・プレゼンテーション	・解説を読み取る ・アンケート結果をわかりやすく報告する	16	・振り返りシート ・提出物、小テスト
11	Unit7 Who should we celebrate on our money?		・新聞記事 ・ディスカッション	・生い立ちと功績を読み取る ・理由付きで意見を述べる ・相手の意見に適切に応じる	16	
12	Unit8 How can we find out if news is real or fake?		・ブログの投稿 ・ディスカッション	・事例を読み取る ・事実と意見を分けて伝える	16	・ワークシート ・パフォーマンステスト ・定期考査
1	Unit9 What is important when choosing a job?		・プレゼンテーションの動画 ・就職面接	・主張を読み取る ・語の意味を推測する ・長所や経験を伝え合う	16	・振り返りシート ・提出物、小テスト
2 3	Unit10 How can we improve our school?		・学校からのお知らせ ・ディスカッションと発表	・提案とその理由を読み取る ・ディスカッションを通してまとめた意見を述べる	16	

計 160 時間 (55 分授業)

教科	英語	科目	ディベート・ディスカッションⅡ	単位数	2単位	学年（科）	2学年（国際文化科）
使用教科書	啓林館『Vision Quest English Logic and ExpressionⅡ Ace』						
副教材等	啓林館『Vision Quest 論理・表現Ⅱ Ace WORKBOOK』、旺文社『Target1900』、リクルート『スタディサプリ 英語4技能コース』						

1 学習目標

英語学習の特質を踏まえ、三つの領域（話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くこと）の言語活動を通して、外国語を用いて詳しくコミュニケーションを図る資質・能力を一体的に育成することを目指す。

2 指導の重点

日常的な話題や社会的な話題について、次のことができるようになることを目指します。

- ① ある論題について、多様な語句や文を用いて、賛成または反対の立場を取った上で、論理的に一貫性のある議論を展開すること。
- ② ディスカッションやディベートなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して伝え合うこと。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目的や場面、状況などに応じた論理の構成や展開を理解し身に付けている。 ・情報や考えなどを効果的に伝える多様な表現を理解し身に付けている。	情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを論理的に適切な英語で表現したり、伝え合ったりすることができる。	自分の意見を相手によりよく理解してもらえるように、論理の構成や展開を工夫して表現し、詳しく伝えようとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・ワークシートや提出物 ・授業中の活動への取組状況 ・振り返りシート ・パフォーマンステスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・ワークシートや提出物 ・授業中の活動への取組状況 ・振り返りシート ・パフォーマンステスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・ワークシートや提出物 ・授業中の活動への取組状況 ・振り返りシート ・パフォーマンステスト などから、評価します。

内容のまとめりごとに、各観点

「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。

5 課題・提出物等

- ・週末課題や長期休業中の課題は別途指示します。
- ・考查毎に振り返りシートを記入し、提出することになります。
- ・学期毎にパフォーマンステストをします。

6 学習アドバイス

1年生のときの文法事項をテーマ別に再度なぞっていきます。1つのことでも多様な表現方法があることや、ライティングでも OREO 以外の構成があること等を学びますが、自分の意見を持つことも大切です。日ごろからいろいろなニュースに関心を向けましょう。また、意見交換を通して、視野を広げましょう。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	Lesson 1 Future Goals		What is your future goal?	・適切な主語を用いる ・文と文をつなぐ	5	・授業中の活動 への取組状況 ・定期考査 ・振り返りシート 等
5	Lesson 2 School Life		What school events do you have?	・適切な動詞を用いる ・パラグラフライティング① パラグラフの基本構成/列挙・順序	5	
6	Lesson 3 Sports		Who is the best athlete?	・時を表す ・パラグラフライティング② 例示・追加	5	・授業中の活動 への取組状況 ・定期考査 ・振り返りシート 等
7	Lesson 4 Information Age		Is social media safe?	・義務・必要・推量を表す ・パラグラフライティング③ 比較・対照	5	
8	Lesson 5 Environmental Issues		How does overusing energy affect us?	・情報を加える(1) ・パラグラフライティング④ 原因・理由・結果	5	
9	Lesson 6 Cultures		What are some cultural differences?	・情報を加える(2) ・主張や理由の根拠を示す	5	・パフォーマンス テスト
	パフォーマンス テスト			ディスカッション ディベート	2	
10	Lesson 7 Language Education		Do all Japanese people need to speak English?	・情報を加える(3) ・リーディングの要約	5	・授業中の活動 への取組状況 ・定期考査 ・振り返りシート 等
11	Lesson 8 Society		Is Japan open enough?	・情報を伝える ・リスニングの要約	5	
	Lesson 9 Wishes		What if you were rich?	・条件と仮定を表す ・スピーチ	5	
12	Lesson 10 Science and Technology		How might AI affect our lives?	・数量を表す ・プレゼンテーション	5	・授業中の活動 への取組状況 ・定期考査 ・振り返りシート 等
1	Lesson 11 Health		What is a healthy life?	・比較を表す ・ディベート	5	
2	Lesson 12 Business		What is important when we sell chocolate?	・否定を表す ・ディスカッション	5	・パフォーマンス テスト
3	パフォーマンス テスト			ディスカッション ディベート	2	

計 64 時間 (55 分授業)

教科	英語	科目	エッセイライティング I	単位数	2単位	学年（科）	2学年（国際文化科）
使用教科書	朝日出版社『CNN Workbook Extended Course』						
副教材等	なし						

1 学習目標

日常を取り巻くさまざまなトピックについて読み聞きたり、ディスカッションしたりして、自らの考えを論理的に口頭や筆記で伝える力を育成する。

2 指導の重点

日常を取り巻くさまざまなトピックについて、次のことができるようになることを目指します。

- ① 英語で実際のニュースを読んだり聞いたりして、その内容を理解することができる。
- ② 実際のニュースをもとに、自分の考えや意見を英語で述べるができる。
- ③ 情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して、複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができる。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・実際の英語のニュースに出てくる語彙や表現を理解し、身に付けている。 ・実際の英語のニュースを読んだり聞いたりして、その内容を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースのトピックについて自分の考えや意見を適切な表現を用いて述べるができる。 ・論理の構成や展開を工夫して、詳しく情報や考え、気持ちなどを伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースのトピックについて、自分で調べたり、他者と意見交換したりすることで理解を深めようとしている。 ・論理の構成や展開を工夫して、詳しく情報や考え、気持ちなどを伝えようとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・パフォーマンステスト ・ワークシート、提出物 ・振り返りシート ・授業中の活動への取組状況 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・パフォーマンステスト ・ワークシート、提出物 ・振り返りシート ・授業中の活動への取組状況 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・パフォーマンステスト ・ワークシート、提出物 ・振り返りシート ・授業中の活動への取組状況 などから評価します。

内容のまとめりに、各観点
 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。

5 課題・提出物等

- ・定期考査は年に4回実施します。
- ・考査毎に振り返りシートに記入し、提出してください。
- ・英語のニュースを活用したパフォーマンステストを年に2回実施します。

6 学習アドバイス

授業後は必ず復習をしましょう。ニューストピックについて、自分で調べたり、他者と意見交換をしたりして、理解を深めましょう。間違ふことを恐れずに積極的に参加してください。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	速さに慣れよう		News1 Pressing the Pause Button	<ul style="list-style-type: none"> ・実生活で使われる英語について、親しみやすいトピックのニュースを聞き、その速さを体感し、耳を慣らす ・自分の言いたいことの大意を英語で相手に伝える 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテスト ・ワークシート、提出物 ・振り返りシート ・授業中の活動への取組状況 等
5			News2 Uncovering a New Threat		3	
6			News3 Love on the Grocery List		3	
			News4 Not Always Priceless		3	
			パフォーマンステスト		2	
7	速さに慣れよう		News5 Heading in the Right Direction	<ul style="list-style-type: none"> ・ナチュラルスピードで、身近に感じられるトピックのニュースを英語で理解する 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテスト ・ワークシート、提出物 ・振り返りシート ・授業中の活動への取組状況 等
8			News6 Floating in the Clouds		3	
9			News7 X Marks the Spot		3	
			News8 Unusual Donor		3	
			パフォーマンステスト		2	
10	ニュースの内容を理解しよう		News9 Rainbow after the Storm	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を英語で伝えるとともに、相手の意見をよく聞き、それを第三者に伝える 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテスト ・ワークシート、提出物 ・振り返りシート ・授業中の活動への取組状況 等
11			News10 Grandma's Best Friend		3	
12			News11 Where to Draw the Line		3	
			News12 A Bit Unpredictable		3	
			News13 A Big Fish Enters the Stream		3	
			News14 Reporting the Truth		3	
			News15 A New Source of Power		3	
			News16 Shorter Is Better		3	
	パフォーマンステスト	2				
1	世界に目を向けよう		News17 A Solution to Pollution	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースを何度も聞き、自分の考えを発信できるように英語表現を自分の中に取り込む ・できるだけ分かりやすい表現で自分の意見を伝える ・相手の意見をよく聞き、その要旨を誤解されないように第三者も伝える 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテスト ・ワークシート、提出物 ・振り返りシート ・授業中の活動への取組状況 等
2			News18 Sounds of the Ancient Past		3	
3			New19 Freedom to Celebrate		3	
			News20 A Worrying Effect		3	

計 64 時間 (55 分授業)

教科	外国語	科目	英語コミュニケーションII	単位数	4単位	学年(科)	2学年(情報科学科)
使用教科書	東京書籍『ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATION II』						
副教材等	東京書籍『ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATION II WORKBOOK』、旺文社『Target1900』、リクルート『スタディサプリ 英語4技能コース』						

1 学習目標

英語学習の特質を踏まえ、五つの領域(聞くこと、読むこと、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くこと)の言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、外国語を用いて詳しくコミュニケーションを図る資質・能力を一体的に育成することを目指す。

2 指導の重点

日常的な話題や社会的な話題について、次のことができるようになることを目指します。

- ① 必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすること。
- ② 必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすること。
- ③ 多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく論理的に注意して話して伝え合うこと。
- ④ 聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく論理的に注意して話して伝えること。
- ⑤ 聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく論理的に注意して文章を書いて伝えること。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・多様な外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・多様な外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・パフォーマンステスト ・ワークシート、提出物 ・振り返りシート ・授業中の活動への取組状況 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・パフォーマンステスト ・ワークシート、提出物 ・振り返りシート ・授業中の活動への取組状況 などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・パフォーマンステスト ・ワークシート、提出物 ・振り返りシート ・授業中の活動への取組状況 などから評価します。

内容のまとめりに、各観点

「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。

5 課題・提出物等

- ・毎週小テストがあります。 ・日々課題としてスタディサプリに取り組みます。
- ・週末課題や長期休業中の課題は別途指示します。 ・考查毎にパフォーマンステストを実施します。
- ・考查毎に振り返りシートに記入し、提出することになります。

6 学習アドバイス

(予習+授業+復習) × ∞ → テスト → 振り返り → 改善 → → → 英語力アップ

「継続は力なり」ではありますが、上のサイクルに、自分なりの楽しみ(プラスα)を加えてほしいです。1年生での経験をいかして、自分の学習方法を確立しよう。自主的、積極的な姿勢で臨みましょう。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	Unit1 What can we do to prevent endemic species from becoming extinct?		・博物館のガイドブック ・ガイドの説明 ・プレゼンテーション	・情報を読み取る ・主要な情報を聞き取る ・資料を活用して書く ・重要な点を強調する	1 2	・ワークシート ・パフォーマンステスト ・定期考査 ・振り返りシート
5	Unit2 Which sports can really be called sports?		・ウェブの記事 ・ディベート	・説明を読み取る ・肯定と否定の主張を聞き取る ・主張と根拠を伝え合う	1 4	・提出物、小テスト
6	Unit3 How do we choose what we eat?		・新聞記事 ・日常会話 ・ライティング	・2つの異なる主張を読み取る ・習慣を聞き取る ・勧めるものや感想を書く	1 2	・ワークシート ・パフォーマンステスト
7 8	Unit4 How have inventions changed history?		・科学雑誌の記事 ・プレゼンテーション	・経緯と結果を読み取る ・論理の構成を意識して説得力ある話し方をする	1 4	・定期考査 ・振り返りシート ・提出物、小テスト
9	Unit5 What can we learn from traveling?		・ウェブの記事 ・ニュース動画 ・エッセイ	・利点と欠点を読み取る ・構成を意識して複数のパラグラフを書く	1 2	・ワークシート ・パフォーマンステスト
10	Unit6 How do people's personalities affect their behavior?		・ウェブのインタビュー記事 ・プレゼンテーション	・解説を読み取る ・アンケート結果をわかりやすく報告する	1 2	・定期考査 ・振り返りシート ・提出物、小テスト
11	Unit7 Who should we celebrate on our money?		・新聞記事 ・ディスカッション	・生い立ちと功績を読み取る ・理由付きで意見を述べる ・相手の意見に適切に応じる	1 4	
12	Unit8 How can we find out if news is real or fake?		・ブログの投稿 ・ディスカッション	・事例を読み取る ・事実と意見を分けて伝える	1 2	・ワークシート ・パフォーマンステスト
1	Unit9 What is important when choosing a job?		・プレゼンテーションの動画 ・就職面接	・主張を読み取る ・語の意味を推測する ・長所や経験を伝え合う	1 2	・定期考査 ・振り返りシート ・提出物、小テスト
2 3	Unit10 How can we improve our school?		・学校からのお知らせ ・ディスカッションと発表	・提案とその理由を読み取る ・ディスカッションを通してまとめた意見を述べる	1 4	

計 128 時間 (55 分授業)

教科	外国語	科目	論理・表現Ⅱ	単位数	2単位	学年 (科)	2学年 (情報科学科)
使用教科書	啓林館『Vision Quest English Logic and ExpressionⅡ Ace』						
副教材等	啓林館『Vision Quest 論理・表現Ⅱ Ace WORKBOOK』、旺文社『Target1900』、リクルート『スタディサプリ 英語4技能コース』						

1 学習目標

英語学習の特質を踏まえ、三つの領域 (話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くこと) の言語活動を通して、外国語を用いて詳しくコミュニケーションを図る資質・能力を一体的に育成することを目指す。

2 指導の重点

日常的な話題や社会的な話題について、次のことができるようになることを目指します。

- ① ある論題について、多様な語句や文を用いて、賛成または反対の立場を取った上で、論理的に一貫性のある議論を展開すること。
- ② ディスカッションやディベートなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して伝え合うこと。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目的や場面、状況などに応じた論理の構成や展開を理解し身に付けている。 ・情報や考えなどを効果的に伝える多様な表現を理解し身に付けている。	情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを論理的に適切な英語で表現したり、伝え合ったりすることができる。	自分の意見を相手によりよく理解してもらえるように、論理の構成や展開を工夫して表現し、詳しく伝えようとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・ワークシートや提出物 ・授業中の活動への取組状況 ・振り返りシート ・パフォーマンステスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・ワークシートや提出物 ・授業中の活動への取組状況 ・振り返りシート ・パフォーマンステスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテスト ・ワークシートや提出物 ・授業中の活動への取組状況 ・振り返りシート ・パフォーマンステスト などから、評価します。

内容のまとめりごとに、各観点

「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。

5 課題・提出物等

- ・週末課題や長期休業中の課題は別途指示します。
- ・考查毎に振り返りシートを記入し、提出することになります。
- ・学期毎にパフォーマンステストをします。

6 学習アドバイス

1年生のときの文法事項をテーマ別に再度なぞっていきます。1つのことでも多様な表現方法があることや、ライティングでも OREO 以外の構成があること等を学びますが、自分の意見を持つことも大切です。日ごろからいろいろなニュースに関心を向けましょう。また、意見交換を通して、視野を広げましょう。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	Lesson 1 Future Goals		What is your future goal?	・適切な主語を用いる ・文と文をつなぐ	5	・授業中の活動 への取組状況 ・定期考査 ・振り返りシート 等
5	Lesson 2 School Life		What school events do you have?	・適切な動詞を用いる ・パラグラフライティング① パラグラフの基本構成/列挙・順序	5	
6	Lesson 3 Sports		Who is the best athlete?	・時を表す ・パラグラフライティング② 例示・追加	5	・授業中の活動 への取組状況 ・定期考査 ・振り返りシート 等
7	Lesson 4 Information Age		Is social media safe?	・義務・必要・推量を表す ・パラグラフライティング③ 比較・対照	5	
8	Lesson 5 Environmental Issues		How does overusing energy affect us?	・情報を加える(1) ・パラグラフライティング④ 原因・理由・結果	5	
9	Lesson 6 Cultures		What are some cultural differences?	・情報を加える(2) ・主張や理由の根拠を示す	5	・パフォーマンス テスト
	パフォーマンス テスト			ディスカッション ディベート	2	
10	Lesson 7 Language Education		Do all Japanese people need to speak English?	・情報を加える(3) ・リーディングの要約	5	・授業中の活動 への取組状況 ・定期考査 ・振り返りシート 等
11	Lesson 8 Society		Is Japan open enough?	・情報を伝える ・リスニングの要約	5	
	Lesson 9 Wishes		What if you were rich?	・条件と仮定を表す ・スピーチ	5	
12	Lesson 10 Science and Technology		How might AI affect our lives?	・数量を表す ・プレゼンテーション	5	・授業中の活動 への取組状況 ・定期考査 ・振り返りシート 等
1	Lesson 11 Health		What is a healthy life?	・比較を表す ・ディベート	5	
2	Lesson 12 Business		What is important when we sell chocolate?	・否定を表す ・ディスカッション	5	・パフォーマンス テスト
3	パフォーマンス テスト			ディスカッション ディベート	2	

計 64 時間 (55 分授業)

教科	英語	科目	グローバルスタディーズI	単位数	2単位	学年 (科)	2学年 (国際文化科)
使用教科書	National Geographic Learning, CENGAGE Learning 『21st Century Reading Level 3』						
副教材等	なし						

1 学習目標

<p>海外の大学へ進学することを見据え、この科目では以下の資質・能力を育成することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語で情報を分析し、考えを生み出し、意見を形成し表現する。 ・様々な視点から考える活動を通して、批判的思考力を身に付ける。 ・トピックに関連した英単語と文法を適切に使用する。 ・振り返りを通して自分の学習スタイルや適性を客観的に判断する。
--

2 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> ・授業はすべて英語で行うことを基本とし、積極的にクラスメイトとコミュニケーションを図りながら自らの考えを臆することなく発信することが出来るようになることを目指します。 ・国際的に活躍するために必要とされる批判的思考力・論理的思考力を育てます。 ・ポートフォリオを活用しながら自己の学習を内省し、一人でも学び続ける学習者になることを目指します。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしている。身の回りにある課題について、他者と協働して解決しようとしている。	身の回りにある課題を見いだし、プレゼンテーション、ディベートやディスカッション、エッセーライティングを通して、情報や自己の考えを整理し場面に応じて表現しようとしている。	活動内容を記録、整理し、ポートフォリオを作成している。相手が伝えようとする事柄を的確に理解し、質問しようとしている。言語やその運用についての知識を身につけるとともに、背景にある文化などを理解している。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・小テスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・プレゼンテーション ・スピーチ などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ディスカッションへの貢献度 ・課題への取り組み などから、評価します。
<p>内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。</p>		

5 課題・提出物等

授業内容に関連するプレゼンテーションの作成やエッセーライティングなど。

6 学習アドバイス

<ol style="list-style-type: none"> ①自立した英語学習者を目指し、家庭でも、4技能をバランスよく学習することを心がけましょう。 ②授業では、「英語で考えを表現する」ことに専念しましょう。 ③「なぜ?」「どうして?」と考えながらテキストを深く読んで、思考する材料にしましょう。

7 学習計画

月	単元名	領域	教材名	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法	
4	21 st Century Unit 1	A「話すこと・聞くこと」 B「書くこと」 C「読むこと」	「自然界に隠された奇跡」	(1) コース概要を説明する。海外の大学についてリサーチするためのオリエンテーションを行う。 (2) プレゼンテーションを通して、文章の構成、スライド作成を学ぶ。	5	観察 ワークシート	
5	21 st Century Unit 2		「成功する方法：もっと睡眠を摂ろう」	教材を通して、批判的・論理的思考力を養う。(年間通して) ディスカッションの基礎を学ぶ。	7	観察 ワークシート	
6	21 st Century Unit 3		「私は音を聞く」	テーマを設定し、ミニプレゼンテーションを行う。	7	ワークシート 発表・観察	
7	21 st Century Unit 4		「幸せな惑星の指標」	アクションプランのリサーチを行う。	7	観察 ワークシート	
8	21 st Century Unit 5		「休暇の力」	アクションプランの修正を行い、実践に向けて計画を立てる。	7	観察 ワークシート	
9	21 st Century Unit 6		「テキストイングが言語を殺す；冗談じゃない！」	「情報共有型」プレゼンテーションの方法を学ぶ。	7	観察 ワークシート	
10	21 st Century Unit 7		「一面的なストーリーの危険性」	「情報共有型」プレゼンテーションを行う。	7	発表・観察	
11	21 st Century Unit 8		「内向的な人の持つ力」	「説得型」プレゼンテーションの方法を学ぶ。	5	観察 ワークシート	
12	21 st Century Unit 9		「優しい天才たち：ボノボ」	「説得型」プレゼンテーションの方法を学ぶ。	3	観察 ワークシート	
1	21 st Century Unit 10		「宇宙で視力を失った経験から学んだこと」	「説得型」プレゼンテーションを行う。	4	発表・観察	
2	ラップアップアクティビティ			適宜	アクションプランについて成果を英語でまとめ、発表する。	3	発表・観察
3	Reading			適宜	アカデミックな内容の記事やエッセーを読み、ディスカッションを行う。	2	観察 ワークシート

計64時間 (55分授業)